

批准スヘキヤニ就キ同僚間臆測種々ニシテ英伊外相間ニハ八日ノ会談ニ於テ是レヲ無期延期ニ内決セリト推測スルモ鮮カラサルカ本使ハ往電第二三四号「チ」氏カ本使ニ語レル処ヲ真相ト思考ス

九日晚餐後「ムソリニ」氏ハ本使ニ向テ理事会ニ於ケル議定書問題ノ経過ヲ尋ネタル上日本カ議定書ニ署名セサレハ伊国モ署名セサルヘシト付言シ其ノ態度幾分前日ト異ナレル感ヲ与ヘタルニ付本使ヨリ然ラハ日本カ署名セハ貴國ハ如何為サル御心算ナリヤト反問セルニ少シク躊躇ノ後日

本カ署名セハ伊国モ遂ニ署名スヘキモノ其ノ署名ハ伊国ノ真意ニ非ス伊国ハ人種問題ヲ初メトシ移民問題ニ至ル迄日本ノ主張ヲ是認スルモノニシテ連盟規約ニハ不満足ナル点ヲ有スト答ヘ米國ノ移民法ヲ攻撃シ伊国ハ同法ノ改正セラレサル限リ米國ニ移民ヲ送ラサル心算ナリト付言ス余談ハ別トシ英伊間ニ議定書ヲ延期ノ名ノ下ニ葬り去ラントスルノ内談無カリシコトハ右ニテ明瞭ト成レリ
往電第二三四号ト共ニ在欧米各大使ニ転電セリ

事項三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題

七八 一月十一日 在ジュネーヴ林陸軍代表ヨリ
津野陸軍次官宛（電報）
次回常設軍事諮詢委員会ノ議題及ビ混成委員会ニ提出議案ノ要旨報告ノ件

付記 兵器民営条約案ニ関スル一月二十四日付陸軍側意見

国連陸三〇

（一月十二日接受）

二月一日ヨリ軍事委員会開催予定議題ハ混成委員会ヲ廢スヘキヤ否ヤノ問題トス本職ハ混成委員会ト軍事委員会ヲ合シテ一機関トナスノ意見出スレハ之ニ賛成スヘキ意見ナリ

同四日ヨリ混成委員会開会予定兵器民営条約案討議セラル

ヘシ提出議案ノ要旨左ノ如シ

一、取締ハ民営ニノミ適用ス国立工場或ハ國家ノ監督ヲ受ケ且私人ヲ利得セシメサル工場ノ製造ニ適用セス

二、民営ヲ禁止スルニ非ス専ラ之力監督ヲ励行ス

三、目的タル兵器材料ハ専ラ戦争ノ用ニ供スヘキモノニ限

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 七八

ル
四、監督手段トシテハ二種ノ免許ヲ認ム一ハ毎年改定セラルヘキ一般免許一ハ各供給契約ニ適応スヘキ特別免許ニシテ一般免許ヲ補足スヘキモノトス右ノ免許ナキ兵器民営ハ總テ之ヲ禁止ス一般免許ハ契約ヲ商議スルノ權ヲ与フ然レトモ政府カ契約ヲ締結及ヒ製產品ノ製造ヲ許スハ特別免許ニ依ルモノトス
五、小営業所買収ノ件ニ関シテハ當該政府ノ優越權ヲ認ム製造ニ關スル新發明ハ當該政府ノ許可アルニ非サレハ總テ之レヲ外國政府或ハ個人ニ売却スルヲ禁ス
六、一般免許有権者ハ投票權ヲ有スル無記名株券ヲ發行スルヲ得ス
七、新聞其ノ他定期公刊物ヲ所有シ或ハ掌握スヘキ企業ニ至大ノ勢力アル会社及之レニ關係アル私人ハ免許ヲ与ヘス
八、兵器製造ニ關スル國際組合及ヒ之レニ類似ノモノニハ其分配官ノ存在スル土地ノ各國政府委員各國政府カ同意

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 七九

スルニ非サレハ特別免許ヲ与ヘス

九、某外国内ニアル私立企業ト兵器ニ関スル契約ヲ締結セントスル時ハ予メ當該外國政府ノ同意ヲ要ス

十、締約範囲外ニ在ル國ニ在ル私立企業ト兵器供給契約ヲナスヲ得ス

締約国ニアル私立企業ハ締約国ハ勿論其ノ他ノ國ニ対シテモ兵器供給契約ヲ為スヲ得

右条約案ハ大体ニ於テ從來我國ノ主張セル所ニ一致セルカ故ニ主義ニ於テ同意ヲ表スル考ヘナルモ特ニ注意スヘキ事項アラハ予メ回訓アリタシ

(付記)
兵器民營條約案ニ閲スル一月二十四日付陸軍側意見

第一 混成委員会及軍事委員会ノ帝國委員ニ對シ條約案審議ノ際帝國政府ノ希望トシテ差向キ左記ノ件ヲ含ミ置ク

様訓令スルコト
一 取締ハ民營ニノミ適用ス

二 監督ハ當該製造所ノ存在スル國ノ政府ニ於テ國際連

大正十三年一月二十四日 陸軍省
武器民營條約案ニ閲スル意見

第一 混成委員会及軍事委員会ノ帝國委員ニ對シ條約案審議ノ際帝國政府ノ希望トシテ差向キ左記ノ件ヲ含ミ置ク

様訓令スルコト
一 取締ハ民營ニノミ適用ス

二 監督ハ當該製造所ノ存在スル國ノ政府ニ於テ國際連

二月四日「ゼネーブ」ニ開会セラルヘキ第九回軍縮混成調査委員会ノ議題ニ關シ重要ナル(一)武器取締ノ問題ハ要スルニ「サン・ゼルマン」条約ニ列記セル適用区域ヲ拡張シ該条約ノ効力ヲ普及セントスルニアリト想定スヘク米國モ暗ニ同説ヲ維持スルカ如キ形勢ニ付対支武器取締方針ト関連シ我政府ハ大体如何ナル態度ニ出テラルル意向ナルヤ、(二)兵器民營ニ關シ今回ノ會議ニ於テハ Colonel Carnegie 案ヲ議題トスルニ至ルヘク右提案ハ兵器民營ヲ絶対ニ禁止スルニアラス免許制度ニ依リ專ラ之カ監督ヲ励行スル規定ニテ我國トシテハ叙上ノ民營取締ニ閲スル條約ノ拘束ヲ受クルコトハ何等痛痒ヲ感セサル次第ニ之アリ寧ロ本件ニ閲シテハ条約ノ成立ヲ促進スルノ態度ニ出ツルコト或ハ帝國ノ利益ニ合スル次第カト思考ス

以上二問題ニ關シ四日ノ會議以前ニ受電スル様至急御回訓アリタシ

八〇 二月二十九日 松井外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛(電報)

軍事費制限問題ニ閲シ訓令ノ件

第七六号

九二

盟規約ノ精神ヲ尊重シテ之ヲ行ヒ國際的監督ヲ受ケス

三 取締ヲ受クヘキ兵器材料ハ戰爭ノ用ニノミ供シ其ノ他ノ目的ニ使用セサルモノニ限ル

四 兵器材料ニ閲スル發明ノ讓渡、讓受ハ當該政府ノ許可ヲ受クルノ必要ナン

五 兵器ノ供給契約ハ当事者カ締約國ノ内外何レニ在ルヲ問ハス自由トス

第二 右ノ外電文ノ意義不明ナル点ニ閲シテハ外務省ニ於テ適宜照会スルコト

第三 条約案ニ對スル帝國政府ノ意見ハ前項ノ照会ニ對スル回答ヲ得タル後更ニ審議決定ノ上回訓スル迄保留シ審議ヲ後日ニ延期スル様帝國委員ヲシテ取計ハシムルコト

第四 外務大臣宛廣沢公使發電第五号中「サンゼルマン」條約ノ適用範囲ヲ拡張セントスル案ニ閲シテハ同意シ難シ約ノ適用範囲ヲ拡張セントスル案ニ閲シテハ同意シ難シ

七九 一月二十一日 在スペイン國廣沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

第九回軍縮混成委員会ノ議題中武器取締、兵器
民營兩問題ニ閲シ請訓ノ件

第五号
(一月二十二日接受)

客年貴電連第二五五号ニ閲シ
(編註)

帝国カ一昨年以来陸海軍費ヲ大ニ減縮シ来レルコトハ御了知ノ通ナル処客年ノ震災ニ因リ財政上多大ノ損害ヲ受ケタル為本年度ハ更ニ之ヲ減シ極度迄縮小セリ将来財政ノ復活ニ伴ヒ徐々ニ軍備ノ復旧整頓ヲ圖ルノ要アルヲ以テ總会決議ノ約束殊ニ理事会ノ認定權ヲ承認スルヲ得ス帝國ハ現状ニ於テハ本件ニ付完全ナル自由ヲ留保シタキニ依リ貴官ハ此趣旨ヲ含ミ適宜御措置相成度シ

編註 日本外交文書大正十二年第三冊三二一文書

八一 三月六日—七日 在パリ清河海軍少将ヨリ
海軍大臣、軍令部長、外務大臣宛(電報)

ローマ海軍會議ノ概況報告ノ件

第一五番電
(三月七日—八日接受)

「ローマ」海軍會議ハ失敗ニ終リシモ各國委員ノ態度ニ依リ各國海軍計画ノ一端ヲ窺フニ足ルヲ以テ概況ヲ電報ス日英仏伊ハ「ワシントン」条約加入國タル上議題原案ノ立案者ナルカ故ニ成ルヘク原案ニ近ク纏メントスルハ自然ナルモ其内仏ハ連盟ニ於テ常ニ國家安全主義ヲ唱フルヲ以テ

現有兵力主義ヨリ遠サカラントン噸數割当ノ日安トンテ之ヲ認ムルニシテモ「ワシントン」會議ノ行掛上一九一四年ノ現状ヲ主張シ殊ニ歐州ニ比シ隣國ノ擡頭セントスルモノニ対シ強硬ニ反対セシ故新加入國ニ対シ主トシテ矢面ニ立テリ英ハ例ニ依リ多ク議論セス露、「スウェーデン」「ギリシャ」「アルゼンチン」等ニ対シ努メテ好意ヲ表セリ伊ハ今回ノ會議中尤モ穩健ナル議論ヲナシ大勢原案通過困難ト看取スルヤ数字ニテ海軍力ノ等級ヲ定ムルコトヲ避ケ申ニ海軍休暇ノミヲ骨子トスル案ヲ提出セシ故小官ハ直ニ之ニ同意シ取纏メニ掛ラントセシモ唯大國ノ制御ヲ受ケスト云フ氣分ノミニ捕ハレタル新參加國委員ハ議題外ナリナソト云ヒ出テ折角ノ好意モ無効トナレリ

常設委員会參加國中往年ノ行掛上強硬ナルヘシト予測サレシ「ブラジル」ハ國家安全主義ヲ主張シ（新委員ハ國會議員ニ経験アリ）独リニテ議場ヲ圧スルノ概アリシモ終リニハ弩級艦二ノ建造主張ヲ一隻トシ「アルゼンチン」「チリ」均等ヲ条件トシ原案ニ近接セリ「スペイン」委員タル海軍大臣ハ會議半途ニ帰國セシ以来強硬ヲ失シ成績極メテ惡シク代換噸數十万五千噸ヲ主張シ後ニ至リ海軍休暇ヲ行

国トシテ四十九万噸必要ヲ論シ爾後条件付ニテ二十八万噸ニ減スヘシト云ヒ尚其条件ハ政治的事項ナルカ故專門委員会タル本會議ニテ論議セスト委員自ラ声明セシヲ以テ大問題ヲ惹起サスシテ終レリ

原案条項ニ対シテモ殆ト各条項ヲ留保セリ一方露國委員ノ要求セシ所モ會議ノ容ル所トナラス要スルニ今回ハ露國委員出席其言ヒ分ヲ披露セシニ過キス

小官上申ノ通り当初ハ成ルヘク纏ムル方針ナリシモ到底不可能ト見シ以来英仏伊ト共ニ「ワシントン」條約主義並ニ

原案支持ノ態度ヲ執レリ會議中「ブラジル」委員カ弩級艦建二隻ノ新造ヲ主張シ議論ノ行掛トシテ日英米トテ弩級艦建造休暇ハ実施サレ非スト云ヒ日本ニ対シテハ暗ニ陸奥ヲ仄メカセル氣味アリシ故小官ハ陸奥ノ既成艦ナリシ事実ヲ詳細ニ説明シ弩級艦ノ建造ハ條約ニ関スル限り帝国ハ嚴正ニ海軍休暇ヲ実施シアリト声明セシニ「ブラジル」委員ハ説明ヲ謝シ所論中ヨリ日本ヲ除ク旨言明シ尚會議後「小官ハ小官ハ又委員会中動モスレハ「ワシントン」條約主義ノ拡張」ナル辞句ニ関シ主義ナル文字ノ削除ヲ試ミントスル企

ハス弩級艦三ノ建造ヲ云ヒ出セシ為會議ノ反感ヲ買ヒ多数

ノ賛成ヲ得サル形勢トナルヤ會議ハ「スペイン」ニノミ不公平ナリト云ヒ爾後討議不参加ヲ声明シ別ニ理事会ニ対シ

声明書ヲ提出セリ「オランダ」「デンマーク」「ノールウェー」ハ大体原案ニ賛成シ所論穩健ナルヲ認メタリ意外ナ

リシハ「ベルギー」ニテ一万噸十吋砲ヲ搭載スル「モニトル」ノ建造ヲ云ヒ出シ之ニ抵触スル条項ヲ悉ク保留セリ

「スウェーデン」ハ議長タリシ關係上遭リ難キ点モアリシカ常ニ露國ノ主張ヲ云ヒ掛リトシ海軍力ノ制限ハ比隣露國次第ナリト条件ヲ付シ「チエツコ」國「ウルグアイ」ハ多くの場合投票ヲ棄權セリ「アルゼンチン」ハ會議ノ劈頭傍観者ナリト声明シ討議ニ参加セス

「チリ」ハ平和主義ヲ標榜シツツ一方南米三国ノ勢力均等ヲ骨子トシテ議論セシカ此三国間互ニ均等論ヲ主張スル間ハ到底纏マル見込ナキコトヲ知リツツ寧ロ之ヲ利用シテ平和論ニ進ム態度ナルコト浅間シクモ見透カサレタリ「ギリシャ」ハ比隣「トルコ」（「トルコ」委員不参加）海軍力制限ヲ条件トシテ少シ許リ修正ヲ加へ大体原案ニ同意セリ露國ハ既電ノ如ク國家安全主義ニ立論シ四個海洋ヲ有スル

図ニ対シ之カ防止ニ努メ置ケリ

第一六番電
八二 三月五日—六日 在パリ清河海軍少将ヨリ
海軍大臣、軍令部長宛（電報）
ローマ海軍會議ニ開スル感想報告ノ件

（三月六日接受）

今回ノ海軍會議ニ開シ連盟事務局当初ノ心算ハ「ローマ」ニテ大体一纏ノ案トナン三月十日ヨリノ理事会ニテ國際會議招集ヲ決シ本年秋以前ニ「ロンドン」ニテ更ニ海軍會議ヲ開キ本年秋ノ総会迄ニ連盟參加國全部加入ノモノトナシ本年ハ是ヲ以テ連盟軍備制限部ノ一事業トナス考ナリシコトハ小官カ内話トシテ仄聞セシ所ナルカ既報ノ如ク原案ハ手ノ付ケ様ナキ形トナリシ上ニ各委員ノ主張スル所政府ノ訓令ナリト声明セシヲ以テ之ニ対スル理事会ノ処置困難ナルモノトナレリ

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 八三 八四

九六

茲一、二年漸次ニ濃厚トナリ来レルヲ感ス

今回ノ會議ノ他ノ產物ハ連盟ニ関シ軍事委員会ノ勢力カ更ニ一步ヲ進メシコトナリ軍事委員会ハ從來平和論ノ張本タル混成委員会ニ圧迫サルル氣味ナリシカ「我等ハ軍事専門ノ見地ヨリ問題ヲ解決シ我等ハ政府ノ訓令ヲ奉スル責任者ナリ混成委員会ハ個人タル所謂政治家ノ集團ナリ」トノ言ヒ分ヲ以テ軍事委員会ハ軍備制限ニ関スル案ヲ裁決シ極言スレハ打破スル如キ態度益々強クナレリ他面觀察トシテ連盟ニ於テ軍事ニ関スルコトハ仏ノ勢力益々強クナリ来レルヲ覓ユル一方ニ於テ英軍事委員ハ仏委員ト同様ノ態度ヲ採リ混成委員会ニ於テハ英政治家委員ノ反対出ツルヲ以テ軍備制限部ニ於テ英ノ勢力ハ軍事委員会ノ擡頭ト相待チ漸次仏ノ劣^(二)現象ヲ呈シ来レリ

八三 三月十九日 在パリ清河海軍少将ヨリ

海軍大臣 軍令部長宛 (電報)

連盟理事会ニ於ケル軍費縮減案ノ審議ニ對ス

ル英國労働党政府代表ノ態度報告ノ件

(三月二十日接受)

今回理事会ニテ満場ノ注意ヲ惹キシハ労働内閣成立後ノ英

海賄第二七号

連第六一号

(三月二十二日接受)

英國ハ相互援助条約ニ不賛成ノ旨バーモー

卿内話ノ件

客年連盟総会ノ決議ニ依リ既ニ各國政府ニ送付セル相互保

海賄第二七号

連第六一号

(三月二十二日接受)

卿内話ノ件

客年連盟総会ノ決議ニ依リ既ニ各國政府ニ送付セル相互保

障條約案ニ關シ今回理事会ニ於テ本案ニ對スル各國政府ノ意見成ルヘク早ク提出アル様勧誘方決議シタルカ右ニ付英國新理事「ペームー」卿カ寿府ニテ本使ニ内話セシ処ニ依レハ英國政府ハ本條約ヲ以テ時勢ニ適合セサルモノト認メ贊成シ居ラス尚從來「ロバート・ゼン」卿カ本件ヲ主張シ来レルハ彼個人ノ意見ニ依ルモノニシテ保守党モ本案ニハ反対ノ意向ヲ有スル由ニテ今後政変アルモ同国政府ノ反対的態度ニハ変更ナカルヘシト云フ

八五 四月一日 在パリ杉村連盟事務局次長ヨリ

松井外務大臣宛 (電報)

第九回混成委員会ニ於テ論議ノ中心トナリタ

ル問題報告ノ件

連第七八号

往電連第七三号ニ關シ

今回ノ混成委員会ニ於テ論議ノ中心トナリタル議題第一ハ取締ノ目的物タル兵器ノ分類ニシテ「コロネル、ロー」ヨリ海軍用兵器及飛行機ヲ除外スヘシトノ提議アリ本員之ヲ支持シタルモ既ニ前回會議ニ於テ軍事委員会ニ付託セル事

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 八五

政府代表トシテ初度ノ出席者タル Lord Parmoor ノ態度ナリ英内閣カ國際連盟ヲ重要視スル意味ノ声明ハ文書報告ニ譲リ軍備ニ関スル一節ヲ報告ス

前回理事会ニテ延期トナリシ「軍備費ハ現会計年度ノモノヨリ超過セシメサル結果」(第四回總会決議第二)ヲ今回再議スルニ当リ決議案起草者タル「チエックスロバキヤ」外務大臣「個人トシテハ本決議ヲ受諾シ得ルモノ余ハ英國代表及二、三ノ理事カ本問題処置ノ延期勧告ノ理由ハ今回モ尚支持セラルルヤ否ヤヲ知ラス」ト付記セシ為英代表ハ一言ヲ要スル破目トナリ本問題ハ政府ニ於テ未タ研究ノ時ナキヲ以テ更ニ延期アリ度ト云ヒ瑞典代表ノミハ爾後本国政府ハ軍費縮減案ヲ提案セシニヨリ本決議案ニ異議ナシト述

ヘ本問題ハ又々次回理事会迄延期トナレリ

八四 三月二十一日 在仏国石井大使ヨリ

松井外務大臣宛 (電報)

英國ハ相互援助条約ニ不賛成ノ旨バーモー

卿内話ノ件

客年連盟総会ノ決議ニ依リ既ニ各國政府ニ送付セル相互保

連第六一号

(三月二十二日接受)

卿内話ノ件

客年連盟総会ノ決議ニ依リ既ニ各國政府ニ送付セル相互保

項ナルヲ以テ採決ヲ求メス唯将来ニ對シ更ニ提案ノ自由ヲ留保シ置クコトニ止メタリ次ニ「ヤニコブチ」及「ジュオ」両氏ヨリ兵器ヲ(軍用)和戰兩用(其他)ノ三種ニ分チ(二)ニ対シテモ嚴重ナル取締ヲ加へ以テ有効ナル兵器ノ取締ヲ期スヘシトノ提議アリタルモ成ル可ク「サン・ゼルマン」条約ヲ変更セサルヲ可トストノ説多數ニテ否決セラル第二ニ特許状下付条件及手続ニ關シ「ジュオー」氏ヨリ詳細ナル列記事項ヲ備フル一定様式ノ特許状作製方ヲ理事会ニ請求スヘントノ提議アリタルモ委員会ハ報告委員「ヒル」氏及「ジユブレ」氏ニ特許状ノ様式作製方ヲ委嘱シ各締約国ヲシテ成ル可ク之ヲ模倣セシムルコトニ決ス次ニ原案ニ於テハ輸出国政府ハ締約国ノ半数ニ依リ政府トシテ承認セラレタルモノタルヘシトノ条項アリタルモ米国委員ノ主張ニ基キ輸出国ニ於テ承認ヲ与ヘタル政府ナレハ足ルコトトシ且交戦団体ヲモ含マシムル諒解ナリ尚本員ヨリ agent ac-crédié ノ意義ニ付質問シタルニ官吏ト否トヲ問ハサル趣旨ナル旨(法人ヲ認ムルヤ否ヤハ未決)起草委員ノ説明アリ將又交戦國ニ向ケタル輸出ニ對シ特許状ヲ下付スルハ中立違反ト見做サル旨ノ条項ヲ挿入スヘシト主張ン「ブイッ

九七

チ」氏ハ戰時ニ於テハ條約ノ適用ヲ停止スヘント主張ン本員ハ法律論ヨリ後説ヲ支持シタルモ結局事務局法律部ノ意見ヲ求ムルコトニ決ス第三、國際中央機関ノ構成ニ付テハ米国ノ反対ニ顧ミ原案ハ連盟外ニ中央事務局ヲ設クルノ趣旨ナリシ處右ニ對シテハ規約第二十三条d項及第二十四条違反ナリトノ大多数ノ反対意見アリ結局非連盟國タル締約國ト交渉ノ上本問題ノ解決ヲ計ルヘキコトヲ理事会ニ一任スルコトニ決ス尙本條約ノ条項中連盟ノ機関ニ付規定スルモノ多キヲ以テ留保付又ハ条件付加入ヲ認ムルノ条項ヲ挿入シタリ

第四、波斯ヲ絶対禁止区域ヨリ除外スル問題ニ付テハ本員ヨリ波斯及平和条約締結後ノ土耳其ノ如キ独立國ハ須ラク条約ニ加入セシメ以テ取締リニ協力セシムルヲ可トスルモ右ハ政治問題ナルヲ以テ之ヲ理事会ノ採決ニ一任スヘント提議シ主權論及國家平等論ヨリ之ニ同意ヲ表スルモノ多ク「ゼシル」卿モ頗ル苦境ニ陥リ結局理事会ノ採決ニ一任スルコトニ同意シタリ

第五、兵器民営取締リ條約ニ關シテハ米國委員「グルユール」氏ヨリ憲法上營業自由ノ制限ハ各州ノ権限ニ屬スルヲ

以テ各州全部ノ任意的協力アル場合ハ格別然ラサル限り中央政府ニ於テ條約ノ締結權無キ旨説明アリ他面兵器取引キ取締條約成立ノ結果ハ民営取締條約中ニ規定セラルヘキ事項ハ減少セラルヘキヲ以テ一時ノ弥縫策トシテ五名ノ委員ニ「カーネギー」原案ノ修正案起草方ヲ付託シ形勢ヲ観望スルコトトナレリ

兵器取締條約ハ次回會議ニハ確定案ト成ルヘク從テ別途郵送ノ關係書類御查閱ノ上修正ヲ要スル点アラハ至急何分ノ御訓示相成度ク特ニ取締リノ目的物タル兵器ノ種類及「サン・ゼルマン」条約第七条乃至第二十一条ノ修正問題ハ五月五日ヨリ寿府ニ開催ノ軍事委員会ニ於テ最終ノ決定ヲ見ルニ至ルヘキニ依リ右二点ニ關シテモ三軍代表ニ至急何分ノ御訓令ヲ仰ク

八六 四月八日 在パリ陸海空軍三代表ヨリ
常設軍事諮詢委員会ニ於テ審査サルベキ兵器

取引取締條約案ニツキ請訓ノ件

別電 四月八日在パリ陸海空軍三代表發外務陸軍及ビ海軍各大臣宛連軍第三四号

兵器取引取締條約案ノ要旨

連軍第三三号

(四月九日接受)

連第七十八号広沢電ノ通り五月初開会ノ軍事会ニ於テハ兵器取引取締條約案ヲ審査スヘク御承知ノ通り混成委員会ニ於テハ全然個人トシテ意見ヲ發表スルニ反シ軍事委員会ニ於テハ政府ノ意見トシテ述ヘサルヘカラサルカ為此際一般原則ニ付テハ素ヨリ特ニ別電(連軍第三四号)條約案要領第一条及第十二条乃至第二十八条ニ關シ連第七十八号電御斟酌ノ上御回電アリタシ

(別電)

四月八日在パリ陸海空軍三代表發外務、陸軍及ビ海軍各大臣宛電報連軍第三四号

兵器取引取締條約案ノ要旨

連軍第三四号

(四月九日接受)

兵器取引取締條約案ノ要旨

第一、兵器ノ分類

第一種、軍用兵器弾薬、即チ一切ノ艦船(潛水艦ヲ含ム)軍用航空機、「タンク」、火砲、弾薬投射ニ適

スル器類、火炎放射器、地雷、水雷、手榴弾、擲弾、機関銃、小口径施綫銃、後装施綫銃、「ピスト

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 八六

ル」、上記兵器ニ使用スル弾薬、軍用ニ供スヘキ爆発物、及推進機並ニ以上列記ノ部品

第二種、「スポーツ」用並ニ護身用火器、弾薬

締約国ハ一方ニハ「スポーツ」護身用兵器ト称シテ軍用兵器ノ輸出入ヲ為スコトナカラシメ他方ニハ實際ノ「スポーツ」用及護身用兵器ノ正当ナル貿易ハ妨ケサル為メ左ノ三項ニ關シ一致ノ定義ヲ下スニ努力ス

一、軍用小銃「ピストル」及其弾薬

二、小銃「ピストル」ニシテ軍用ニモ其他ノ目的ニモ供シ得ルモノ及其弾薬

三、小銃「ピストル」ニシテ軍用トシテ値打ナシト認ムルモノ及其弾薬

合ヲ除ク

第三条、國際公法ニ依リ使用ヲ禁セラレサル兵器ニ關シテハ第二条ノ禁止ニ拘ハラス締約國ハ第一種兵器弾薬ノ輸出ヲ許可ス但左ノ条件ヲ要ス

一、輸出国ノ認ムル政府ニ直接交付スルコト

二、右輸出ノ許可ハ成ルヘク付録ニ示ス一定様式ニ依ル

三、右購買ハ購買國政府ノ委任ヲ以テ兵器取扱者ノ仲介

ニ依ルコト等

第四条、第一種兵器輸出免許ノ写一通ハ輸出国ヨリ該兵器

カ其國境ヲ通過スル以前ニ國際中央機関ヘ又他ノ写一通

ハ輸入國ヨリ兵器到着後一ヶ月以内ニ右機関ヘ送付ス

第五条、第二種兵器ニ對シテハ特別禁止地方ナラサル限り

許可ナク輸出セシムルコトヲ得然レトモ締約國ハ各場合

ニ其用途ヲ判定シ若シ之カ軍用ニ供セラルト思考スル

時ハ第二、第三条ノ規定ヲ適用ス

第六条、第十条ニ掲タル地帶地方ニ對シテハ第一、第二種

兵器共ニ輸出ヲ禁ス

第七条、略ス

第八条、某國ノ保護ノ下ニアル國カ他ノ強國ヨリ兵器ヲ求

メントスル場合ニ於テハ第一第二種兵器共ニ其輸出ヲ禁

ス

第九条、國際中央機関ヘ理事会之ヲ設置ス其任務ハ本條約

ノ目的トスル第一種、第二種兵器彈薬ノ貿易移動ニ關シ

各締約國間ノ各種書類本條約適用ノ為ノ法律命令等ヲ蒐

何分ノ儀御回訓相成度此段申進候也

八七 四月十五日 在パリ杉村連盟事務局次長ヨリ

松井外務大臣宛

相互援助条約案ニ對スル政府ノ意見開示方請

訓ノ件

付屬書 四月十一日連盟理事会議長発外務大臣宛

(付屬書)

四月十一日連盟理事会議長発外務大臣宛

右書簡

C. L. 48. 1924. IX.

League of Nations.

Geneva,

April 11th, 1924.

在巴里

國際連盟帝國事務局次長 杉村 陽太郎 (印)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

相互援助条約案ニ對スル帝國側ノ意見開示方

ニ開スル件

大正十二年十月三十日付往信連本公第二十七〇号ニ關シ今般

理事會議長ヨリ別紙書翰 C. L. 48. 1924. IX. ハ以テ去ル

三月中旬寿府ニ開会セラーネタル第二十八回理事会ノ決議ニ

基キ次回総会ニ提出前各國政府ニ移牒スルノ必要アルニ付

相互援助条約案ニ對スル帝國政府ノ意見成ルヘク速ニ開示

アリ度此申越候ニ付右書翰茲ニ及転達候条右回答方ニ開シ

集保管スルニ在リ各締約國ハ其發行セル輸出許可兵器ノ
數量送リ先ヲ明カニセル報告ヲ毎年公表ス

第十条、「サンゼルマン」條約第六条ニ同シ但理事会ニ於

テ現時ノ状況ニ合スル如ク更ニ審査訂正スル筈

第十一條乃至第二十五条、「サンゼルマン」條約第七条乃

至第二十二条ニ同シ、軍事委員会ニ於テ審査訂正スル筈

第二十六条、略ス

第二十七条、各國ハ他ノ締約國ノ贊同ヲ得テ一部若クハ條

件付本條約ニ加入ヲ為スコトヲ得

但此条件及一部加入ハ兵器取引取締ノ効力ニ触レサルヲ
要ス

第二十八条、本條約ノ解釈並適用ニ關シ生シタル問題ハ國

際裁判所或ハ無之時ハ仲裁裁判所ノ裁決ヲ仰クモノトス

第二十九条乃至第三十二条、略ス

第三十二条、本條約ハ十二ヶ國ノ批准ニ依リ有効トナル右

ノ内ニハ白耳義、亞米利加、仏蘭西、英吉利、伊太利、

日本、露西亞ヲ含ムヲ要ス

第三十三条、省ス

猶原文ハ三月末郵送済

tee as a result of an exchange of views between its members, some of whom spoke in their personal capacity;

Considering that this discussion has revealed some divergences of view and, further, that a large number of Governments have not yet expressed their opinions on Resolution XIV of the Third Assembly;

Decides to request the Council to submit the draft Treaty of Mutual Assistance to the Governments for their consideration, asking them to communicate their views in regard to the aforesaid draft Treaty". In his letter, the Secretary-General added that "in order that the work of the co-ordination of the opinions of the Governments in regard to the draft Treaty might be taken in hand in sufficient time for the consideration of the next Assembly, it would be of the greatest utility that these opinions should reach the Secretariat of the League as early as possible in the year".

bers of the League of Nations, which have not yet communicated their views on this subject, requesting them to be good enough to do so, in order that their views on the Treaty of Mutual Assistance may reach the Secretariat in time to be submitted to the next Assembly."

In requesting you to bring this resolution of the Council to the notice of your Government, I would again venture to point out how important it is that the observations of your Government regarding the Treaty of Mutual Assistance should be forwarded to the Secretariat as soon as possible in order that they may be communicated before the next Assembly to all the Members of the League.

I have the honour to be,

Your Excellency's obedient servant,

Alberto Guani

Acting President of the Council
of the League of Nations.

At its last session, the Council noted that only three States, Belgium, Estonia and Finland, had forwarded their opinions to the Secretariat. Since that Session the reply of the Union of the Soviet Socialist Republics has been received. Having regard to the necessity of submitting the opinions of a sufficient number of Governments to the next Assembly in order to enable it to consider the question anew, the Council adopted the following resolution:—

"The Council, in view of Resolution No. 1 of the Assembly, in accordance with the draft Treaty of Mutual Assistance was submitted to the Governments for their consideration with the request that they should communicate their views in regard to the said draft,

Considering that it is important that the next Assembly should be in a position to examine the draft again in the light of the views of the Governments, Instructs its President to approach all States, Mem-

His Excellency,
the Minister of Foreign Affairs
of Japan,
Tokio.

八八 五月廿十日 在ベリ陸海空軍三代表ヨリ
第十回国常設軍事諮詢委員会ノ在ナル議題並
「II決議ノ原報書」其主ナル議題並決議ノ要領左ノ如シ

連軍第三五號 (五月廿七日接收)

第十四回国常設軍事委員会ノ五月十一日ヨリニ二十日迄ヨリ
於ケルヤハル其主ナル議題並決議ノ要領左ノ如シ
第一議題(ア)此器取引取締上現時ノ軍事智識ヲ以テ兵器表ノ
調整(イ)此器民制ノ國ノ國家監督ノ見地ニ軍用材料ノ定
義ハナス事

第一議題、此器取引取締条約案 (以下単ノ条約案ト記)
連軍第三四号、參照) ノ審議

第三議題、常設軍事委員会内規並手続ノ修正

右第一議題ノ(a)ニ関シテハ第一議題タル条約案第一條ノハ
國係税ヲ云テ英國税貿ノ提案タル此器類別表ニ基キ慎重

ニ研究セラレ左ノ要旨ニ依リ三種類ニ区分決議セラレタリ
第一類、(a) 各国軍ノ武器トシテ現在採用セラレ又ハ将来採用セラントスル兵器並其弾薬ニシテ左ノ物ヲ含ムトノ主題ノ下ニ施綫銃、拳銃、火砲、弾薬等概々条約案第一条第一類ノ兵器ヲ列挙セリ但シ艦船航空機並「タンク」ハ大ナル議論ノ問題トナラスシテ削除セラレ唯航空機用照準機ヲ追加セリ

第一類ノ(b) 各国空軍ノ武器トシテ嘗テ使用セラレタル兵器並其弾薬ニシテ現ニ使用セラレサルモノナルモ尚軍用トシテ使用シ得ルモノ

第二類、軍用ニモ他ノ用途ニモ使用シ得ル兵器並弾薬（完成品並部品共）ト題シ其内ニ（一）非軍用ノ目的ニ造ラレタル火器ニシテ第一類ニ属スル弾薬ヲ發射シ得ルモノ（二）第一類ニ含マレサルモノニシテ六、^{ミリ}又ハ其レ以上ノ口径ヲ有シ肩付^{カタヅケ}ニテ發射シ得ル施綫銃（三）上記ノ兵器ニ使用シ得ル弾薬四、火薬並爆薬

第三類、軍用ノ価値ナシト認メラレタル兵器弾薬（第一類第二類ニ含マレサルモノ）ト題シ其ノ中ニ肩付ケ發射シ得ル施綫小銃ニシテ口径六耗以下ノモノ拳銃ニシテ口径六・

及総会ニ於テ審議シ多少ノ修正ヲ為シタルモ大体ニ於テ「サン・ゼルマン」条約ノ条項ト主義ニ於テ変更ヲ及ホサスシテ終レリ、詳細ハ書類

第三議題

常設軍事委員会内規並手続ノ修正

右ハ英國委員ノ提案ヲ基礎トシテ研究セラレシカ仏國委員ノ提言ニ依リ軍事委員会ト混成委員会トノ権限並編成問題未解決ナル且下ノ状況ニ於テハ其根本主義ニ触レサルコトヲ可トスルコトヲ条件トシテ研究セラレタル結果決議ノ主眼点ハ概不現行規定ト大差無キニ了リタルモ議長ノ任期ヲ四ヶ月トセルコト並其順序ハ「ベルサイユ」會議ニテ定メラレタル仏蘭西語ヲ以テスル各國名ヲ「アルファベット」順ニ排列セルモノノ内奇数ニ当ルモノヨリ初メ順次ニ議長トスルコトニ決シタリ其結果第一回ニハ白耳義ハ総會議長ニ英國ハ陸軍仏國ハ海軍日本ハ空軍部会ノ議長ニ相当スルコトトナリ九月一日頃ヨリ実行ノ運トナルヘシ總テノ書類ハ五月末頃発送ノ予定

八九

五月二十七日 在パリ陸海空軍三代表ヨリ外務 陸軍及ヒ海軍各大臣宛（電報）

五耗以下銃身ノ長サ十粍以下ノモノ其ノ他獣銃ノ如キモノヲ列挙セリ

最後ニ付記トシテ（以上三種ノ兵器ハ國際公法ニ依リ其ノ使用ヲ禁セラレタル兵器ヲ含マス之此種ノ兵器ノ取引ハ当然禁セラルヘキモノニシテ從テ其ノ取引ノ為許可ノ免状ヲ与フルコトハ禁スヘキコト明ナレハナリ）ト第一議題ノ(b)軍用材料ノ定義ニ関シテハ仏國委員ノ提議ニ依リ軍事委員会ハ下ノ要旨ノ決議ヲ為セリ即チ軍事委員会ハ広キ範囲ニ亘ル軍用材料ノ列挙ヲ為スコトハ困難ナルコトニシテ縱令之ヲ作成スルモ不完全ニシテ自然議論ヲ釀成スヘキ性質ノモノナルヲ以テ民營取締條約ノ目的トシテノ兵器モ寧ロ地上、海上又ハ空中ニ於テ使用セラルヘキ總テノ殺傷兵器ヲ具体的ニ列挙スルヲ賢明ノ策ナリト認メ之ニ基キ第一類ノ兵器類別表ヲ作成セリ第二議題兵器取引取締條約案ハ其第一条ニ第一議題ノ決議タル兵器類別表ヲ其ノ儘當嵌ムルコトニ混成委員会同意セハ是レニ連繋ヲ有スル各条ヲ修正スルノ必要アルヘキヲ指摘セルノ外軍事専門以外ノ諸条ハ本委員会ハ是レニ触ルルコトヲ避ケタリ

「サン・ゼルマン」条約第七条乃至第二十一条ハ海軍部会

第十四回常設軍事諮詢委員会ノ論議ノ模様報告ノ件

五月二十日閉会セル第十四回軍事委員会報告
連盟第三六号

（五月二十八日接受）

第十四回常設軍事委員会報告
五月二十日閉会セル第十四回軍事委員会ハ各種議題共各國委員ノ間ニ著シキ主義上ノ相違ヲ生セサリシニモ拘ラス會議ハ比較的長時日ニ亘レリ之レ一面ニハ今回ノ會議ハ英國側議長トナリ各種議題共凡テ英國委員ノ提案ヲ基礎トシ論議セラレ議長ハ各國委員ノ説ヲ曲ヶテ之ヲ引着ケントスル傾向アリ各國特ニ仏國ハ之ニ対シ相當対論ヲ敢テスルカ如キ情勢ニ誘致セルコト其ノ一因ト認ムルモ各國カ凡テノ問題ニ就キ自國ノ利害ヲ最モ敏感ニ打算シ微細ナル問題迄モ容易ニ一致点ヲ見出シ得サリシハ其ノ主因ナリト認ム本会議ノ主ナル議題タル兵器取引取締案中第一条ノ兵器ノ類別ニ関シテハ艦船、航空機並「タンク」等ヲ第一類兵器ニ加フル問題ハ大ナル論議ヲナサスシテ第一条中ヨリ削除セラレタリ之レ仏國委員ノ提案セシカ如ク是等武器、兵器弾薬ノ裝備ヲ待チ始メテ其ノ軍用的価値ヲ發揮スルモノニシテ之無クシテハ軍用トシテ価値ナキモノナリトノ説全会異議

二 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 九〇

一〇六

ナク賛同セシニヨル尤モ次回混成委員会ニ於テ再ヒ此問題
ハ各國軍人以外ノ委員ニ依リ論議セラルコトト考ヘラル

ルモ既ニ軍事委員会ノ決議モアリ又英國側元来ノ主張ト仏

國側主義上ノ同意トハ大勢之ヲ動カスコト能ハサル様想像

セラル

尚条約案ノ政治的条項ニ関シテハ専門以外ノ事項トシテ論

議セラレサリシ関係上禁止地帯ニ関スル問題ニ触レス又

「ブラジル」委員ハ専門以外トシテ討議セラレサリシ各条

特ニ第二、第三条ノ兵器輸出ニ関スル事項ニ就テハ兵器非

製造国ノ立場ヨリ之ヲ留保セリ又英國委員ハ兵器取引取締

条約二種ヲ作成シ一ハ世界共通ノモノトシ他ハ禁止地帯ニ

対スルモノトスルヲ可トスル理事会ヘノ意見具申案ヲ提出

セシカ軍事委員会ハ之ヲ政治的事項ナリトシ単ニ英國委員

ノ意見トシテ理事会ニ移スコトトセリ

右条約案ノ決議ハ混成委員会ニモ通告スルコトトナレリ

五月二十一日

九〇 七月五日 在パリ杉村連盟事務局次長ヨリ
幣原外務大臣宛

連盟事務総長ヨリ軍事費予算制限ニ關スル第

ヲ裏書シタル上之ヲ各連盟国ニ移牒シテ其ノ採ラムトスル
処置ニ關シ回答方ヲ依頼スル趣旨ノ決議案ヲ提出シタリ
右決議案ニ關シ英國理事「ベルモア」卿ハ本提案ハ連盟國
ニ対シ何等ノ義務ヲ負担セシムルモノニアラスト思考スル
カ故ニ之ニ賛成スルモ英國政府カ總会決議ノ指示スル如キ
手段ヲ採リ得サルコト及相当意義アル如キ回答ヲ為シ得サ
ルコトニ關シ予メ留保シ置カナルヲ得サル旨ヲ声明シ伊国
理事「サランドラ」氏ハ右「ベルモア」卿ノ声明ニ対シ同
意ヲ表シ其他瑞典理事「ブランチング」氏仏國理事代理
「クローゼル」氏及報告委員ノ陳述アリタル後石井大使ハ
去ル二月下旬第二十八回理事会ノ際ニ於ケル御電訓ノ趣旨
ニ顧ミ報告委員ノ提案ニハ賛同ヲ答マサルモ帝国政府ニ於
テ震災以後極度ニ切詰メタル軍事費予算ヲ将来其儘維持ス
ルコトハ頗ル困難ト思考スル旨ヲ陳述シタルカ結局理事会
ハ報告委員ノ決議案ヲ其儘可決致候（別添乙号付属書類第
二十九回理事会議事録抜粋 參照）
（省略）

前掲理事会決議ニ關シ今般連盟事務総長ヨリ貴大臣宛書翰
(別添甲号付属書類 C. L. 82. 1924 IX)ヲ以テ右決議ヲ
移牒シ來ルト同時ニ之ニ關スル帝国政府ノ措置方々付回答

四回総会ノ決議ニシキ政府ノ措置回示方要請
ノ件

付屬書

六月二十四日連盟事務総長發幣原外務大臣宛書

簡

右政府ノ措置回示方要請ノ件

付記

調書 軍事費予算制限問題

連本公第二四四号

大正十三年七月五日

在巴里

國際連盟帝國事務局次長 杉村 陽太郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

第二十七回及第二十八回理事会カ主トシテ英國理事ノ反対
ニ依リ第四回連盟総会ノ採択シタル軍事費予算現状維持ニ
關スル勧告の決議ノ審査ヲ延期シタル次第ハ曩ニ電報ヲ以
テ及報告置候處右決議審査ノ問題ハ去月中旬寿府ニ於テ開
催ノ第二十九回理事会議題ニ供セラレ本件ニ關スル理事会
ノ報告委員「ベネス」氏ハ理事会カ前記総会ノ勧告的決議

甲号付属書類

C. L. 82. 1924. IX.

Société des Nations.

Geneva, June 27th, 1924.

Your Excellency,

I have the honour to inform you that the Council
of the League of Nations adopted on June 14th, 1924
the following resolution on the subject of the Limitation
of Expenditure on Armaments:—

"The Council, endorsing the Assembly's Resolution
recommending the Members of the League, subject
to certain reservations, not to exceed, during the
period necessary for the elaboration and adoption of

the general scheme for the reduction of armaments, provided for in the Budget of the present fiscal year, Decides to instruct the Secretary-General to send the above recommendation to all States Members of the League and to request them to state what action they propose to take with regard to the recommendation".

It will be remembered that the Resolution of the 4th Assembly to which reference is made above is as follows:—

"The Assembly,

Notes with great satisfaction that in the course of the last three years the States Members of the League have, with very few exceptions, been able to reduce their expenditure on armaments; Desires that this fortunate development should become more marked and more general; Recalls the resolutions of the preceding Assemblies concerning the limitation of expenditure on armaments;

take with regard to this recommendation.

I have the honour to be,

Your Excellency's obedient servant,

Eric Drummond
Secretary-General.

His Excellency,

The Minister for Foreign Affairs
of Japan,
Tokio.

(右記)

調書 軍事費予算制限問題

第一、第一回國際連盟総会ハ規約第八条ニ從ヒ連盟理事会

カ軍備縮小案ヲ作成スルリハ相當ノ期間ヲ要ベキヨムハ

認メ右軍備縮小案ノ実行ニ至ル迄ノ暫行的措置トシテ連盟各國ニ対シ其ノ軍事予算ヲ制限セシムトヲ勧告セリ（決議第一号第一回連盟総会決議末段ノ勧告参照）

右勧告ニ関シ連盟理事会ハ千九百二十一一年一月十五日ノ決議ヲ以テナラ名目ニ送付シ右勧告ニ從ハキヤ松ヤノ意

And requests the Council to recommend to the Members of the League not to exceed, during the period necessary for the elaboration and adoption of the general scheme for the reduction of armaments, the total expenditure on military, naval and air armaments provided for in the budget of the present fiscal year; Subject to the reservation, however, that allowance shall be made:

- (a) for all contributions of effectives, material or money, recommended by the Council for the execution of the obligations provided for in Article 16 of the Covenant.
- (b) for all exceptional situations brought to the notice of the Council and recognised by it as such."

In conformity with the terms of Paragraph 2 of the Resolution of the Council, I have the honour to request that you may be so good as to let me know in due course, for the information of the Council and the Assembly, what action your Government proposes to

見ヲ求ムキヨムニ連盟事務総長ニ命シタルヲ以テ事務総長ハ同年三月八日付書翰ヲ以テ付属書第一号ノ如ク右勧告ヲ送付シ來シ

帝国政府ハ理事会ニ於テ軍備縮小案ヲ作成スルハ先チ軍事予算制限ノ約束ヲ為スハ時宜ヲ得タルヤノニ非ラヌト認メ其ノ趣旨ヲ以テ付属書第一号ノ如ク回答セリ

第一、然ルニ第二回連盟総会ハ更ニ軍事予算制限ニ關シ勧告ヲ發セシムトヲ決議（決議第一号参照）次テ千九百二十一年一月十七日付書翰ヲ以テ付属書第三号ノ如ク帝国政府ニ右勧告ヲ送付シ來ハリ帝国政府ハ千九百二十一年七月十日付書翰ヲ以テ依然前年回答ノ見解ヲ維持スル旨付属書第四号ノ如ク回答セリ

第二、其ノ後第三回連盟総会ハ大戰ノ結果其ノ状態ニ変化ヲ來ササリシ歐州諸国ニ就シテノニ軍事費予算額ヲ千九百十三年度ノ程度ニ迄減少セシムトヲ請求スル勧告ヲ決議シタルカ（決議第三号参照）理事会ニ於テ右ノ如キ一部ノ国ニ就シテノニ勧告ヲ為スムトハ適否ニ關シ疑アリト認メタ

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 九一

一一〇

ルヲ以テ其ノ発送ヲ見合スコトトナリ其ノ儘第四回連盟総会ニ至レリ

第四、第四回連盟総会ハ再ヒ第一回総会及第二回総会決議ト大体ニ於テ同趣旨ノ勧告ヲ連盟各國ニ発セノコトヲ理事會ニ要請セリ（決議第四号参照）

理事会ニ於テハ本問題ノ審議ヲ暫ク延期シタルカ遂ニ一千九百二十四年六月十四日右勧告ヲ連盟各國ニ送付シ同勧告ニ對シ其ノ採ラントスル処置ノ回答方ヲ請求スヘキ旨ヲ決議シタルニ依リ事務總長ハ千九百二十四年六月二十七日付書翰ヲ以テ付属書第五号ノ通り之ヲ帝国政府ニ達シ来レリ

帝国政府ニ於テハ理事会カ右問題ヲ審議セル際石井理事ヨリ付属書第六号ノ如ク其ノ所見ヲ陳述シタルコト及多數国ニ於テ回答ヲ発スルノ模様ナキノ事實ニ鑑ミ其ノ回答ヲ發スルコトヲ見合セ居タル處第五回総会ニ於テ平和議定書ノ成立ヲ見軍備縮小會議ノ開催予定セラルニ至リタルヲ以テ同総会ハ軍事費制限ニ関スル勧告ヲ繰返サス之ヲ後ニ開カルヘキ右軍備縮小會議ノ一般計画中ニ包含セシムルコトトセリ（決議第五号乙二参照）

編註 各決議及ビ付属書ハ省略スル

第十回混成委員会ニ於ケル主要決議事項報告

ノ件

別電一

七月十七日在パリ杉村連盟事務局次長発幣原外務大臣宛電報連第一四九号

在パリ杉村連盟事務局次長発幣原外務大臣宛（電報）

兵器取引取締條約案ニ関スル修正事項

二

七月十七日在パリ杉村連盟事務局次長発幣原外務大臣宛電報連第一五〇号

兵器民営取締條約案ニ関スル修正事項

連第一四八号

（七月二十二日接受）

第十回混成委員会ハ七日ヨリ十二日迄寿府ニ於テ開催主要決議事項左ノ如シ

一、兵器取引取締條約案ニ関シテハ第一小委員会報告ノ原案（C. T. A./S. C. I. 34）及軍事委員会報告ヲ基礎トシ猶事務局法律部ノ意見及軍事委員会ニ於ケル英國側ノ提案ヲ參照シテ討議ノ結果右原案ニ大要別電一ノ修正ヲ加ヘ之ヲ可決シタリ

猶貴電第三七号ニ關シ第三条ニ於テ特許状下付ノ主義ヲ認メタル以上其内容及形式ヲ簡単ナラシメムトスルモ到

ルカ第五項及第六項ハ結局削除セラレタリ

三、混成委員会ノ存続問題ニ關シテハ理事会カ規約第八条ノ軍備縮減問題ニ關シ連盟国ト協定ヲ遂クル迄大體現状ノ儘存置方希望スル旨理事会ニ報告スルニ決ス

四、軍備縮減問題ニ關スル第四回総会ノ決議第六ノ法案協定ニ就テハ地理的地位ノ特殊ナル国ハ右協定ヲ締結シ又ハ之ヲ締結セシシテ既ニ其軍備ヲ縮小セルヲ以テ今改メテ此等ノ国ニ對シ右協定締結方ヲ勧告スルモ何等ノ効果ナカルヘキ旨ヲ決議シタリ

委細ハ一件書類ヲ添ヘ郵報ス

（別電一）

七月十七日在パリ杉村連盟事務局次長発幣原外務大臣宛電報連第一四九号

兵器取引取締條約案ニ関スル修正事項

連第一四九号

（七月十八日接受）

トヲ看取シ学究的態度ヲ以テ差当リ條約ノ基礎的原則ヲ作成スルコトニテ満足シタレハ往電連第一三五号及貴電第七三号ノ次第アルニ拘ラス我方ニ於テモ主要工業国全

部ヲ網羅スルニアラサレハ其効果ナキ旨及國際的取締ノ主義ニ反対ノ旨ヲ高調シタル外大勢順応ノ態度ニ出テダ

主張各別個ノ條約案ヲ作成セムトスル提案ヲ撤回シタリ

一、兵器民営取締條約ノ基礎的原則ニ關シテハ「プラグ」特別委員会採択ノ六原則ニ大要別電二ノ修正ヲ加ヘタル上之ヲ可決シタリ

猶委員会ハ米國ノ不参加ニ依リ本條約成立ノ見込少キコ

トヲ看取シ学究的態度ヲ以テ差当リ條約ノ基礎的原則ヲ

作成スルコトニテ満足シタレハ往電連第一三五号及貴電

第七三号ノ次第アルニ拘ラス我方ニ於テモ主要工業国全

部ヲ網羅スルニアラサレハ其効果ナキ旨及國際的取締ノ

主義ニ反対ノ旨ヲ高調シタル外大勢順応ノ態度ニ出テダ

一一一 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 九一

Ships of all kinds designed exclusively for war, including submarines and submersibles; airships, aeroplanes and seaplanes designed exclusively for war; tanks; armoured cars.

第三条、第四条第一項ヲ本条第一項第六号トシ輸出国及輸入国共ニ特許状明細簿ヲ三ヶ月毎ニ國際中央機関ニ送付スヘキ旨ノ規定ニ改ム

新第四条個人ニ対スル第一種部分品ノ輸出特許状ハ次ノ条件ニ依リ之ヲ下付スルコトヲ得右部分品ハ政府ノ特許ヲ得タル兵器製造業者カ之ヲ必要トスル旨ノ申告ニ基キ右製造業者宛直接輸出セラルルヲ要ス

特許削除ニ関シ第九条ハ新第八条トナル其第三項ハ右第八条ニ代リタルモノニシテ次ノ如シ

締約国ハ本条約ノ効力発生前締結セラレタル契約履行ノ結果タル譲渡ニ関シ公表ヲ確実ナラシムル為メ其供給シ得ル一切ノ報道ヲ國際中央機関ニ送付スルコトヲ約ス

第十条ハ新第九条トナリ軍事委員会編ノ原案第十一条乃至第二十五条下付國政府及輸入國政府ハ前記部分品カ送先ニ到着スルコトヲ確保スルコトニ適當ナル一切ノ警戒手段ヲ

テノミ効力ヲ生ス

新第二十七条旧第二十九条ニ同シ但シ第二項中ニ華府海軍制限条約ヲ加フ残余ノ条項ハ形式上相当ノ反抗ヲ受ケ新第二十八条乃至三四条トナレルモ實質上大差ナン

(別電二)

七月十七日在パリ杉村連盟事務局次長堀原外務大臣宛電報

連第一五〇号

連第一五〇号
(七月十八日接受)

第一四八号別電第二号第一項取締ノ目的物ハ兵器取締条約

第一条ノ規定スル第一種兵器等ニ限ル第三項(回)号ヲ削除シ

旧(回)号ノ次キニ次キノ通追加ス(回)特許状ヲ下付スル政府ハ

特許状下付ノ前後及其ノ有効期間中名義人ノ工場ヲ監督ス

ルノ權能ヲ有ス(回)民營特許人ノ関スル限り政府ハ兵器等ノ

製造ニ關スル一切ノ專売特許權等買収及使用ノ優先權ヲ保

留ス第五項及第六項削除新第五項立法府ノ議員ハ同時ニ國

家ト契約ヲ締結スル兵器製造企業ノ理事又ハ支配人タル事

ヲ得ス新第六項各國政府ハ兵器取引取締条約ニ依リ設置セ

ラレタル中央國際機関ニ特許名義人タル一切ノ会社ノ住所

トルヘシ本條規定ニ依リ下付セラルヘキ特許状ハ能フ限リ外多少字句ノ修正アリ新第十条乃至第二十三条トナリ第二十六条ハ新第二十四条トナル第二十五条ハ交戦国ヲ送先トスル兵器輸出特許状ノ下付カ中立法規違反トナル惧アルニ依リ之ヲ避ンカ為挿入セラレタルモノニシテ次ノ如シ

輸出國及通過國ノ交戦國ト承認シテ締結國ニ通知シタル國ヲ送先トスルカ又ハ右交戦國ノ計算ニ於テスル兵器等ノ輸出及通過ニ關スル限り戰時中第二条乃至第六条ノ規定ハ平和克復ニ至ル迄停止セラル

新第二十六条第一項ハ第二十七条第三項ニ該当スルモ条件付又ハ一部的批准ヲモ許ス趣旨ニ修正セラル其第二項次ノ如シ

前項ノ権利ヲ行使シタル國ニ關シテハ条約ハ加入又ハ批准ノ通告アリタル日ヨリ起算シ一年ノ期間満了迄ニ締約國ノ一ヨリ右加入又ハ批准ニ關シ異議ヲ提起セサリシ場合ニ於

第七条削除

(別紙) 相互保障条約ニ関スル意見

相互保障条約ニ關スル意見

相互保障条約ハ主義ニ於テハ反対スヘキ理由ナキモ抑モ相互保障ハ締盟国各信頼ニ値スル國軍ヲ現有シ連盟理事会ノ要請アルトキ之ニ即応シ得ル準備アル國際間ニ於テノミ有効ナリトス然ルニ東亞ノ現勢ハ未タ此ノ期待ニ副ハス且一

方歐米諸國ノ屬領相交錯シ一層其ノ關係ヲ複雜ニス則チ近ニ将来ニ於テ本條約ヲ東亞ノ地域ニ實行セントスルハ至難ニシテ容易ニ加盟ヲ許ササルモノト認ム試ニ條約案ニ就キ特ニ指摘シ又ハ反対スヘキ事項次ノ如シ

一、侵略被侵略ノ審判

第一条条文ノミヲ以テシテハ其ノ國際的罪惡ナリト宣明セル侵略的戰爭ノ何ナルカヲ明白ニスルヲ得ス周密

明確ナル審判標準ノ規定ヲ必要トス尚同条ニ於テ對手國ノ政治的獨立又ハ領土保全ノ侵害ノ有無ヲ以テ右審

判ノ一規準ト為サムトスル如クナルモ必シモ正当ナラス蓋シ此等ヲ侵害スルハ戰爭其ノ者ノ本質上避ケ難キ处ニシテ毫モ戰爭開始前ニ於ケル企図ニ関セサル場合アレハナリ

五、派出連合軍ノ統帥

原案ニ依レハ派出連合軍ハ理理事会ノ掌理下ニ置カレ理事會ハ其ノ最高指揮者ヲ指名シ其ノ任務ヲ定ムト規定

セルノミニシテ協同作戦ニ於ケル統帥ノ方針及指揮權限等ニ關シテハ何等ノ規定ヲ設ケス帝國國軍ノ性質ヨ

リスルモ統帥ノ円滑ヨリ謂フモ事前ニ於テ此等ニ關スル明確ナル規定ヲ要スルモノト認ム

六、軍備ニ關スル報道

軍備ニ關スル報道提供ハ世界ノ全軍國カ本條約ヲ批准セサル限り報道提供國ニ取り不利益為ル虞アルヲ以テ

本件ハ之ヲ保留スルヲ可ナリト認ム

七、効力発生ノ差異

効力発生ニ關シ大陸毎ニ區別シアルハ一見條約ノ成立ヲ促進スルカ如キモ實際ニ於テハ何等其ノ効果ナク妥當ナラスト認ム

九三 七月三十日 在英國林大使ヨリ
幣原外務大臣宛

相互援助条約案ニ對スル英國政府ノ態度報告

ノ件

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 九三

二、援助ノ地理的範囲

漫然タル大陸別ハ理由ナキノミナラス却テ條約ノ目的ニ反シ軍備縮小ノ障礙ト為ルノ虞ナキニ非ス宜シク政

治並軍事的現状ヲ考慮シテ決定スヘシ

(参考) 帝國海軍ノ閑スル限り援助行動ノ範囲ハ主トシテ西部太平洋トシ印度洋其ノ他隔在セル海面ニ對シテ相当行動ノ自由ヲ留保スルヲ要ス

三、援助兵力ノ標準

援助兵力ノ決定ヲ理事会ニ一任スル原案ハ理事会偏重ノ嫌アルノミナラス運用ニ当リ幾多ノ遲延ト障礙トノ因ヲ為スヘキヲ想見スルニ難カラス寧ロ其ノ決定ハ締盟國自ラ之ヲ為スヲ可トス

(参考) 海軍ニ閑スル限り四分ノ一以内ノ兵力ナラハ隨時運用シ得ル見込

四、屬領殖民地等ノ條約上ノ地位

帝國特殊ノ地位ニ鑑ミ三、四ト関連シ極東ニ於ケル英仏諸國ノ領土ニ對スル帝國ノ援助義務及此等領土ノ關係上其ノ本國カ帝國ニ對シテ負フヘキ義務ヲ明白ナラシメ置クヲ要ス

公第三〇六号

大正十三年七月三十日

在英

特命全權大使男爵 林 権助(印)

外務大臣 男爵幣原 喜重郎殿

國際連盟軍備縮小混成委員会ノ作成セル相互扶助條約案ニ對スル英國政府ノ態度ニ付報告ノ件

(Temporary Mixed Commission)ノ起草セル相互扶助條約(Treaty of Mutual Guarantee or Assistance)案ハ客年第四回總會ニ於テ第三委員会ノ修正ヲ經タル上總會ニ提出セラレ同總會ニ於テ右條約案ヲ連盟構成員タル各國政府ニ通牒シテ其ノ考量ヲ求メ且ニニ對スル意見ヲ提出スルコトヲ要請スルニ決シタル次第ハ既ニ同總會議事報告ニ依リ御承知ノ通ニ有之候處本件決定ニ基キ連盟事務總長代理ヨリハ客年十月二十五日ヲ以テ外務大臣「カーヴン」卿宛右條約案ヲ送付シ來リ爾來英國政府ハ之ニ對シ慎重考量ヲ加へ就中(一)同條約ニ含マル保障ハ果シテ一國ニ對シ安シシテ軍備縮小ヲ實行セシメ得ルモノナリヤ(二)他國ニ對シ履

行セラルヘキ義務ハ果シテ世界各国カ敵肅ニ之ヲ果シ得ヘキ性質ノモノナリヤノ二点ヨリ考察ヲ遂ケタル結果

(一) 本條約案ニ関スル混成委員会ノ報告ハ國際連盟カ本條約ノ採用ヲ勧奨シタル場合軍備縮小ノ根底トシテ必要ナル確実性及信頼性ノ要素ヲ欠ク

(二) 本條約ニ拠レハ國際連盟カ侵撃國ニ対シ武力的圧迫手段ヲ執リ得ル迄ニハ相当日数ヲ要スヘキ處斯クテハ條約本来ノ目的ヲ達スルニ必要ナル有効性ヲ失フヘシ

(三) 本條約ニ依ル義務ヲ忠実ニ履行セムカ為メニハ軍備ノ縮小ヨリハ却テ其ノ拡張ヲ必要トスルニ至リ全ク條約ノ目的ヲ失フコトトナル

(四) 本條約ニ拠レハ相互扶援ノ一般的條約ノ有スル欠陥ヲ補フ為メ更ニ特定国間ニ部分的條約ヲ締結スルノ案アルモスカル方法ハ連盟設置前ノ同盟及反対同盟ノ再現ヲ誘致スル惧アルノミナラス有力ナル國家カ連盟外ニ在ル現状ニ於テ其ノ目的ヲ達シ得ス

(五) 前記部分的條約ノ提案ハ交戦國中何レカ侵撃者ナリヤヲ決定スル上ニ於テ連盟理事会ト各箇ノ政府トノ間ニ確執ヲ招ク惧アリ

寿府連盟事務総長宛右ノ趣旨ヲ通告セリ

本件往復ニ關シ最近当国政府ノ発表セル白書一部及添送候ニ付委曲右ニ依リ御承知相成度此段及報告候也

九四 七月三十一日 津野陸軍次官ヨリ
松平臨時平和条約事務局長宛

相互援助条約案ニ関スル陸軍側ノ意見回報ノ件

大正十三年七月三十一日

歐発七九号

陸軍次官 津野 一輔(印)

臨時平和条約事務局長 松平 恒雄殿

相互援助条約ニ對スル帝國側意見回示方ニ関スル件
三月二十七日和一機密合第三一八号及六月十九日和一普通合第一一〇八号ヲ以テ照会有之候本件ニ關スル當方ノ意見別紙ノ通ニ候也

(別紙)

相互援助条約案ニ関スル意見

臨時混成委員会ニ依リ準備セラレ且第四回連盟總会第三委員会ニ於テ修正セラレタル相互保障条約案ニ關スル所見左

(一) 本條約案ニ依ル義務ニ對シテハ之ヲ承認シ得サル國少カラサルコト混成委員会ノ報告ニ依ルモ明ナリ

(二) 本條約案ハ連盟規約ノ規定上常ニ諸問機關タル性質ヲ変シテ執行機關タラシムルコトトナル

(三) 要スルニ本條約案ハ徒ラニ國際關係ノ紛糾ヲ招キ其ノ条項ノ實施困難ナルノミナラス是等ノ欠点ヲ補ツテ余アル充分ノ便益ヲ有スルモノト認ムルヲ得ス

等ノ理由ニ依リ混成委員会ノ本件ニ關スル調査並條約案作成ノ勞ヲ多トシ其ノ労力ノ決シテ無益ナラサルヲ信スルモ本條約案ノ採用ハ之ヲ承認シ得サルモノナリトノ結論ニ到達シタルカ本問題ニ關連スル軍備縮小會議ノ問題ニ關シテハ将来好機會アラハ連盟以外ノ國家ヲモ含ム會議ヲ開キ右條約案中ノ諸提案ニ付充分ナル審議ヲ行フコトニハ何等ノ異議ナク現下ノ状態ニ於テハ英國政府ハ進シテ本件會議ニ審議セラルヘキ題目ニ付提案ヲ為スノ地位ニハ在ラサルヲ以テ本件ニ付テハ單ニ軍備ノ實質的削減ヲ可能ナランムヘキ協定ヲ遂クル上ニ出来得ル限り力ヲ効スヘキコトヲ言明スルニ止ムルニ決シ七月五日「マクドナルド」外相ヨリ在

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 九五

一一八

二、侵略非侵略ノ決定ニ関スル第四条ハ實ニ一般條約ニ定

ムル援助協力發動ノ基礎ヲ成シ延テ軍備制限目的達成ノ能否ニ關スル根本的条項ナリ然ルニ事實上ノ判定殆ント不可能ナリト認ムヘキ本条ノ規定ハ一般條約ノ威力ヲ著シク失墜セシムルモノニシテ補助協約カ本条ノ羈絆ヲ脱セントスル主因ナルニ依リ更ニ慎重攻究ヲ要スルモノト認ム

右ノ外同條約逐条ニ就キ意見ヲ有スルモ以上ノ主要ナル主義ニ於テ意見ノ相違ヲ有スルヲ以テ其細部ニ關スル所見ハ開陳セス

九五 八月十五日 在パリ杉村連盟事務局次長ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

相互援助条約案ニ對スル英、米、独等ノ回答

要領報告ノ件

連第一六七号

(八月十六日接受)

貴電第八六号ニ關シ

英、米、獨其他ノ回答要領大略左ノ通り

(原文何レモ発送スミ)

仏國ハ未タ回答ヲ提出セス

キ有ユル提案ヲ審議セントスルニアリ其際如何ナル実際的提案ヲモ審議スル自由ヲ留保スト付加セリ

一、北米合衆国

其憲法法(不明)組織ノ為及連盟国タラサルニ依リ本条約案ニ贊同スル能ハス条件付又ハ一部の加盟ノ如キモ合衆国ニ取リテハ問題トナラス

三、独逸

侵略國決定ノ困難及理事會ノ如キ政治的色彩ヲ有スル機関ニ広汎ナル權能ヲ与フルノ危険ヲ指摘シ中欧諸國軍備ノ不均衡狀態ノ存スル限り軍事的援助不可能ナリトシ本

案ハ規約ノ規定ニ比シ却テ退歩ナリトテ特別條約ニ反対シ尚「ベルサイユ」條約等ニ影響ヲ及ホササル旨ノ規定

アリテハ独逸ハ本條約ニ加盟スルヲ得スト述ヘ軍縮ノ目的ヲ達スルニハ暴力ニ對スルニ法ノ力ヲ以テスル制度ヲ發達セシムルヲ要ストテ政治的争議解決ノ為独立ノ保障ヲ有スル機關ヲ設ケ之ニ暴力行為特ニ所謂平和的占領ニ對シ領土ヲ保全スヘキ臨時の措置ヲ命スル權能ヲ与ヘ又國境変更ヲ決定スヘキ法律的手続ヲ制定スルコト等ヲ主張セリ

四、支那

本案ハ大体承諾シ得ヘキモノト認ム但シ陸軍ニ付テハ一九二二年ノ決定計画タル八十万ヲ維持シタリ海軍ニ付テハ満足ナル防備ノ為ニハ根拠地等ヲ建設スル外五十万噸ノ軍艦ヲ必要トス

五、右ノ外加奈陀ハ英國政府ト大体同意見ニテ本案ニ贊同

シ得サル旨ヲ回答シ和蘭モ昨年ノ回答及総会代表ノ論述ニ変リナシトテ本案ニ不賛成ノ回答ヲ提出セリ

相互援助条約案ニ對スル我方ノ態度確認ニ関

スル件

連第一八六号

(八月二十八日接受)

在パリ杉村連盟事務局次長ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

一、英國

(一)理事会カ所定期間内ニ侵略國ヲ決定スルノ困難ナルノミナラス侵略ノ定義不可能ナルヲ以テ右ノ点ニ付理事会ノ全会一致ヲ得ルノモ容易ナラス(二)數國軍ノ協同動作計畫ヲ迅速ニ作製且実施スルコト至難ニシテ又所要兵力ヲ供給スルニ適スル地位ニアル國モ種々ノ事情ニ依リ之ニ応シ得サル等ノ為軍事上ノ援助ヲ得ル迄ニハ相当ノ時日ヲ要スヘクステハ折角ノ援助モ効果薄キノミナラス(三)援助ニハ理事会ニ於テ之ヲ与フル國ノ承諾ヲ要ス之等ノ理由ニ依リ本條約ノ保障タルヤ極メテ不確実ニシテ信賴スルニ足ラス何レノ政府モ責任アルモノカスル保障ヲ代償トシテ軍備縮小ヲ承諾スル能ハスノミナラス完全ニ本條約ノ義務ヲ履行セントセハ英國ハ却テ軍備殊ニ海軍ノ拡張ヲ要ス他國モ亦同様ナラント論シ尚本條約ヨリ生スル事会ノ權限ヲ拡張スルモノトナセリ依テ英國政府ハ本案ニ贊同シ得サル旨ヲ言明シ軍備縮小ニ關スル同政府ノ政策ハ適當ナル時機ヲ待チ國際會議ヲ開キ軍縮ヲ実現スヘ

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 九七

一一〇

議ヲ之ニ依リテ整理シ延テ軍備制限ヲ実行スル事ヲ主張スルナラント想像スルモノ多シ就テハ相互援助条約案ニ対シ第四総会ニ於テ表明シタル帝國政府ノ態度ヲ維持セラル御意向ナリヤ理事会ノ照会ニ対シ回答スルノ時期來レリト存セラルモ若シ暫ク待タル御意向ナレハ當方心得迄御内訓アリ度ン

九七 八月二十八日 在パリ杉村連盟事務局次長ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

相互援助条約案ニ関スル仏國政府ノ意見書要

領報告ノ件

（八月二十九日接受）

連第一八八号
往電第一六七号ニ閲シ

相互援助条約案ニ関スル二十三日付仏國政府意見書要領次
軍備縮小案モ有効且即時ノ相互援助ヲ条件トス連盟規約ハ實ハ一般的の相互援助条約ナリ仏國カ現役年数ヲ半減シ現役兵數ノ二割五分ヲ減シ戰前ニ比シ軍艦噸數ヲ半減シタルハ規約ノ精神的保障ニ信頼セルカ為ナリ国防上陸海空軍

部ノ負担スル義務ニハ非スシテ是レニ依リ一般相互援助ヲ促進セントスルモノニ過キス又相互援助条約ト連盟規約トノ重複ハ許スヘカラス然ノミナラス一大陸ヨリ他ノ大陸ニ財政經濟及陸海空軍ニ依ル援助ヲ求ムル如キ果シテ適當ナリヤ而シテ之歴史的、地理的等ノ理由ニ依リ特ニ脅威セラル國ノ安全ヲ保障スル為特殊協定ヲ必要トスル主タル理由ナリ、該協定カ公開ニシテ加盟希望國ノ加入ヲ許シ理事會ノ審査ニ服シ防禦的ニシテ自動的相互援助ノ場合ヲ明確ニ限定シ *casus foederis* ナクシテ適用セラルム廣ナキハ

テ理事会全会一致ヲ要セス三分ノ二ノ多數決ニテ決シ得ヘキコト、五、第十八条規定ヲ一層正確ナラシメ條約批准ニ依ル軍備縮小計画ヲ受諾スル迄ノ期間中ニ侵略ヲ蒙ムルコトアルヘキ締約国ニ対シテモ援助ヲ与フヘキ旨ヲ明定シ得ヘキコト
仏國政府ハ相互援助条約案ヲ確定的トハ思惟セサルモ是レニ前記ノ修正又ハ考慮ヲ加フルニ於テハ受諾シ得ヘキモノト認ム云々

九八 八月二十九日 在パリ杉村連盟事務局次長宛（電報）
幣原外務大臣ヨリ
相互援助条約案ニ対シ理事会ニ回答スペキ趣

旨訓令ノ件

第一〇三号

貴信連本公第一三一号ニ閲シ左記趣旨ヲ以テ回答方可然取計ハレ度シ

一、第四条ノ規定ハ一般的援助協力發動ノ基礎ヲ為シ延テ軍備制限ノ目的ヲ達成スルノ能否ニ關スル根本的規定ナリ然ルニ理事会カ審査ノ標準トスル侵略ノ定義ヲ定ムルコトハ事實上不可能ナルノミナラス所定ノ期間内ニ侵略國ヲ決リ得ヘキ旨ヲ規定シ得ヘキコト、四、相互援助ノ開始ハ敢

ハ不可分ナリ軍縮ノゲンシヨウニハ須ラク三軍ヲ一体トシテ考慮スルヲ要ス國際義務ノ遵守ニ對スル列國相互ノ信賴ハ相互援助組織ノ基調ナリ從テ本條約加入國ハ先ツ規約第一條ニ所謂「國際義務遵守ノ誠意アルコトニ付有効ナル」保障ヲ与フ」ルコトヲ要ス第三回連盟総会決議第十四カ規約第十条及第十六条ノ適用ヲ目的トスル一般保障条約ト直接且自動的兵力援助ニ関スル特殊協定トヲ配合セルハ仏國政府ノ發意ニ出テ竟ニ相互援助条約案ト成ル該案ハ規約第十条及第十六条ノ相互援助ト第八条ノ軍備縮小トヲ目的トシ且侵略戰爭ヲ國際的罪惡トシ世界平和ノ基礎タル政治的独立及領土ノ不可侵ヲ保障セントス一般的相互援助ノ主義ハ國際連帶ノ觀念ニ基キ各國ニ重大ナル義務ヲ負担セシム仏國政府カ曩ニ連盟ニ加入シ且相互援助条約案ヲ是認シタルハ自國ノ安全ト兩立スル限り右義務ヲ負担シ以テ國際連帶ヲ具體化セントノ希望ニ出ツ然リナカラ一般的相互援助ノ協定ハ軍事的實際価値不十分ニテ單ニ是レノミニテハ事実軍備ヲ縮小シ得ス唯經濟上効力アリ又精神的価値アルカ為縮小ヲ他日ニ期シ得ルニ過キス況シヤ相互援助条約ノ財政的及經濟的援助ハ規約第十六条ノ夫レトハ異リ連盟國全

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 九九

右訓令

定スルカ如キモ同シク実行困難ト認ムヘキコト

二、理事会ニ対シ相互援助ニ関シテ現ニ規約ニ認ムル以上

ノ多大ノ権限ヲ与ヘントスルハ規約ノ精神ニ反シ余リニ理
事会ニ偏重スルモノナルノミナラス之力運用ニ当リ幾多ノ

遲延ト障礙トノ因ヲ為スヘキコトヲ予見スルニ難カラサル
コト

三、一般的相互援助条約ノ内ニ補助協定ヲ配合スルトキハ

連盟中ニ相対抗スル幾多ノ集団ヲ割拠対立セシメ終ニハ軍
備競争ノ論ヲ誘致スルノ虞アリ從テ帝国政府ハ主義上特殊

的相互援助条約ヲ承認セムトスル方針ニハ賛成シ難シ

四、各条項ノ細目ニ付テ尚研究ヲ要スルモノアリト雖モ右

条約ノ根本方針ニ付疑義ヲ有スルヲ以テ暫ク之ヲ他日ニ留
保スヘキコト

九九 八月三十日 勝原外務大臣ヨリ

在ジユネーヴ連盟総会代表宛（電報）

第五回連盟総会ニ於ケル本邦代表ニ対スル訓

令ノ件

別電 八月三十日勝原外務大臣在ジユネーヴ総会代表

宛電報第一〇号

四、兵器取引及民營取締ニ付テハ追テ電報スヘシ

編註 日本外交文書大正十二年第三冊二八四文書

一〇〇 八月三十一日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ

勝原外務大臣宛（電報）

連盟総会ニ於テ討議ノ資料ニ供セラルルシヨ

ツトウェル等起案ノ軍備制限案ノ要領報告ノ

件

第六号 (九月一日接受)

六月ノ理事会カ理事會員ニ配付方ヲ決シタル Showell 外

九名ノ米國人カ非連盟國ニモ適用シ得ル趣旨ニテ起案セル

軍備ノ制限及国防ノ安全ニ関スル條約案ハ總会ニ於テ討議
ノ資料ニ供セラルル趣ニ付原文郵送済ナルモ要領左ニ電報
ス

一、一切ノ侵略行為ノ有無ニ付常設國際裁判所ニ決定權ヲ
付与ス

二、侵略的行為ニ關スル國際法典ノ編纂並軍備ノ制限及各

國々防ノ安全ニ關スル勸告ヲ為サシムル為少ナクトモ三年

毎ニ permanent advisory conference ヲ開ク

三、違反國ニハ協力又ハ經濟的制裁ヲ加フ

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一〇〇 一〇一 一〇二

第九号

右訓令

第五回総會議題中主要ノモノニ關スル政府ノ方針ハ屢次ノ
訓令ニヨリ既ニ御承知ノ筈ナルモ為念別電第一〇号ノ通申
進ス尚「ルフィニイ」案ニ付テハ別電第一一号ノ趣旨ニヨ
リ可然措置セラレタシ

編註 別電第一一號省略

（別電）

八月三十日勝原外務大臣在ジユネーヴ連盟総会代表宛電報

第一〇号

第五回連盟総会ニ於ケル本邦代表ニ対スル訓令

第一〇号

一、相互援助条約ニ關シテハ往電第一〇三号及客年往電第
三二号第一七九号御参照ノ上措置セラレタシ

二、軍事予算制限ニ關シテハ往電第七六号参照セラレタシ
尤モ帝国政府ハ常ニ出来得ル限り予算ヲ制限スル方針ナ
リ

三、華府海軍條約原則普及ニ付テハ特ニ主張スヘキモノナ
シ他國ノ海軍勢力カ帝国ノ安全ニ脅威ヲ及ホササル限り
ニ於テ大勢ニ順応セラレ度シ

リ

四、理事会ニ軍備ニ關スル情報ノ審査権ヲ認ム

五、理事会カ本條約ト兩立スト認ムル場合補充的相互援助
協定ヲ認ム

一〇一 九月一日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ

勝原外務大臣宛（電報）

相互援助条約案ニ対スル意見及ビ軍事費予算

制限ニ關スル第四回総会決議ニ対スル措置ニ

ツイテノ回答ニ關シ請訓ノ件

第九号 (九月二日接受)

貴電第一〇号ニ關シ

一、四月十五日付往信連本公第一三一號（今日迄ニ回答済
ノ國英、仏、白、米、露、独、和蘭等二十一ヶ國ナリ）

及

二、七月五日付往信連本公第二四四號ノ回答ハ別ニ帝国政
府ニ於テ御作成直接連盟事務局ニ御発送ノ御手筈ナリヤ

將又御訓令ノ御趣旨ニ依リ當方ヲシテ作成セシムル御考
ナリヤ至急御指図ヲ仰ク

一〇二 九月一日 在ジユネーヴ連盟総会代表ヨリ

勝原外務大臣宛（電報）

一一三一

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一〇三 一〇四

毒ガスノ性質及ビ効力ニ関スル混成委員会ノ

意見報告ノ件

第一〇号 (九月二日接受)

ヘキカト思考ス御参考迄

三軍代表ト打合済

混成委員会ハ曩ニ八名ノ学者ヲシテ作成セシメタル毒瓦斯問題ノ性質及効力ニ関スル意見ヲ総会ニ報告セリ右ニ拠レ

ハ毒瓦斯ノ主タル要素ハ三種ナルモ其調合方法ハ既ニ千種ニ上リ将来ノ発達及人身ニ及ホス慘害測リ知ルヘカラサル

モノアリ而シテ之ニ対スル防禦手段常ニ不充分ナルノミナラス非戦闘員殊ニ都市ノ受クヘキ慘害ハ防禦ノ余地ナク又

化学薬品製造工場カ即時毒瓦斯工場ニ変シ得ルカ為化学工業ノ発達セル国ハ国防上頗ル有利ノ地位ニ立チ平時秘密裡ニ用意シタル有効多量ノ毒瓦斯ヲ以テ戰時防禦手段ナキ敵國ヲ容易ニ圧倒シ去ルヲ得ヘシ云々

右混成委員会ノ報告ハ何等ノ具体的提案ヲ含マス模様ニ依リテ本問題ハ爾今不問ニ付セラルル虞ナキニアラス就テハ

本問題ニ關スル委員会及總会ノ議事経過及決議等御参照御

考察ノ上毒瓦斯發達幼稚ナル本邦ノ地位ニ鑑ミ何等カ具体的提案アラハ此際御垂示相成リタク混成委員会ニ本問題ノ

繼續的研究及毎年年報提出方ヲ委嘱スルカ如キモ一案ナル
繼續的研究及毎年年報提出方ヲ委嘱スルカ如キモ一案ナル

貴電第九号ニ関シ

一〇三 九月三日 常原外務大臣ヨリ
在ジユネーヴ連盟總会代表宛(電報)

相互援助条約及ビ軍事予算制限ニ関スル件

第一七号

貴電第九号ニ関シ

(一)ニ付テハ杉村宛往電第一〇三号冒頭ノ通貫方ニ於テ回答案作成提出相成度シ

(二)ニ付テハ連本公第二四四号御報告ノ如キ状態ナルニ付取急キ回答ノ必要ナカルヘント存セラルルモ貴方ニ於テ回答方適當ト認メラルニ於テハ石井大使宛往電第七六号ノ趣旨ニヨリ可然取計ハレタシ

一〇四 九月十一日 常原外務大臣ヨリ
在ジユネーヴ連盟總会代表宛(電報)

毒ガス問題ニ關シ訓令ノ件

付記 調書 國際連盟ニ於ケル毒ガス問題経過概要
第三四号

貴電第一〇号ニ關シ

一、會議ノ大勢カ本問題ヲ不問ニ付セントスル場合ニハ其ノ儘ト致度シ
二、若シ討議セラルル場合ニハ本件華府條約ヲ速ニ各國ニ普及セシムル様可然措置セラレ度シ尚御申越ノ如ク混成委員会ニ本問題ノ繼續的研究及年報提出方ヲ委嘱スル様致度シ

(付記)

調書 國際連盟ニ於ケル毒ガス問題経過概要

國際連盟ニ於ケル毒瓦斯問題経過概要

一、第三回連盟総会決議迄
軍事委員会ハ夙ニ本問題ノ研究ヲ開始シタルモ毒瓦斯ノ使用ヲ公認スヘキヤ否ヤヲ決定スルハ軍事委員会ノ権限ヲ超越スルモノニシテ一ニ理事会ノ裁量ニ待ツヘキモノナルコトヲ決議シ其ノ研究ヲ中止セリ
第十回理事会ハ毒瓦斯使用ノ人道及平和ノ使命ニ反スルモノナルコト、人道及國際法ノ原則ヲ犯スモノニ対スル制裁ヲ研究スヘキコト、毒瓦斯製造防止方法ヲ研究スヘキコトヲ決議シ総会ニ毒瓦斯使用禁止ノ提案ヲ為セリ然ルニ第一回連盟総会ハ毒瓦斯問題ヨリモ更ニ

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一〇四

一二五

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一〇四

一一六

方ヲ要求スルモ将来ノ戰争ニ於テ毒瓦斯ノ使用ヲ減少セシメントスル本来ノ目的ヲ達スル能ハサルコトヲ認メ右公表ノ問題ハ打切り別ニセシルノ提議ニ基キ小委員会ヲ設ケ毒瓦斯ニ関スル諸情報ヲ蒐集シテ之ヲ報告セシメムトスル提議ヲ決議セリ、尚毒瓦斯使用禁止ニ關スル華府条約ヲ一般ニ拡張セムトスル提議アリシモ之ニ付テハ調印國カ未タ批准ヲ了セサル狀態ニアリタルヲ以テ暫ク之ヲ延期シ海軍軍備制限條約普及ノ為ニ計画セラルル國際會議ニ於テ之ヲ併セテ審議セムコトヲ提議スルコトトセリ

二、第三回連盟総会以後ノ経過

第三回連盟総会ハ本件ニ関スル混成委員会報告ヲ審議

シ大要左ノ趣旨ノ決議ヲ為セリ

(1) 化学的発見カ将来ノ戰争ニ齎ス影響ニ付報告セシムル為小委員会ヲ設置スヘシトノ混成委員会ノ議ヲ承認ス而シテ該委員会ノ報告力充分ニ公表セラレムコトヲ希望ス

(2) 毒瓦斯禁止ノ華府条約ニ連盟國カ加入スル様理事会ハ勧告ヲ發スヘシ

世人ニ正確ナル概念ヲ与ヘントスルモノナリ、右ノ目的ヲ達成セムトスル為ニハ毒瓦斯及バクテリアヲ戰争ニ應用スルコトニ由リ如何ニ大ナル慘害ヲ惹起シ得ル

ヤニ付堪能ナル専門家ノ意見ヲ聽取スルヲ望マシトス、混成委員会ハ右ノ事情アリタルヲ以テ第四回連盟総会迄ニ報告ヲ提出スル運ニ至ラサリキ故ニ第四回連盟総会ハ單ニ左記決議ヲ為スニ止マリタリ

「總会ハ将来ノ戰争ニ於テ化学的発見カ齎スコトアルヘキ影響ニ関スル特別委員会ハ専門家ト協力シテ審議継理事會及混成委員会ニ對シ一切ノ手數ヲ尽シ委員会報告ノ充分ナル公表方ヲ確保セムコトヲ要請ス」

其ノ後前記毒瓦斯小委員会ハ専門家ト協力シテ審議継続中ナリシカ今般連盟総会ニ報告ヲ提出スルニ至レリ其ノ詳細ハ別添電報ノ如シ、帝国トシテハ至急研究ノ上總会全權宛訓令ノ必要アリ目下外務、陸軍及海軍三省ニ於テ協議中ナリ

(参考)

一九二二年十二月海牙ニ開催セラレタル戰時法規委員会帝國委員ニ對スル参考案中毒瓦斯問題ニ關スル部分左ノ如シ

第一、毒瓦斯

華府會議ニ於ケル毒瓦斯ニ關スル條約ニハ手ヲ触レサルコト

但シ毒瓦斯又ハ之ニ類似ノ物ノ種目ヲ明カニスルノ問題起リタル場合ニハ人道上可成其ノ使用禁止ノ範囲ヲ広ク定ムルノ趣意ヲ以テ殊ニ左ニ掲タルモノハ當然禁止種目中ニ包含セシムヘキコト

一、毒液ノ使用

二、直接人身ニ及ホス目的ヲ以テスル可燃性瓦斯又ハ液体ノ使用

三、病原菌ノ使用

一〇五 九月十九日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

總会第三委員会ノ設置セル第三分科会ニ於テ

相互援助条約等一般討議開始ノ件

(九月十九日—二十日接受)

第三委員会ハ三分科会ヲ設ケテ兵器取引取締條約案及兵器

民營取締問題ヲ第一分科会ニ混成委員会存続問題科学戰軍事費予算制限軍事統計年報及地方的協定ノ問題ヲ第二分科

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一〇五

一一八

会ニ華府海軍制限条約ノ原則普及ニ関スル条約案ヲ第三分科会ニ付託シタル後相互援助条約仲裁裁判安全及軍備制限問題等九月六日ノ総会決議ニ依リ本委員会ニ付託セラレタル事項ニ付一般討議ヲ開始セリ右一般討議ニ際シ意見ヲ述ヘタル國ハ伊、英、仏、日本、「セルビア」、諾威、瑞典、和蘭、波蘭等十八箇国ニ上リタルカ其ノ論スル処多岐ニ亘リ簡単ニ之ヲ報スル事困難ナルカ特ニ注意スヘキ議論ノ要旨次ノ如シ

伊国委員ハ相互援助条約案ニ関スル伊国政府ノ意見及五日ノ総会ニ於ケル「サランドラ」氏ノ演説ヲ引用シテ右案ニ關シ一面ニ於テ特殊協定カ相対峙スル同盟ヲ形成スル惧アルコト侵略國認定ノ困難ナルコト理事会ノ權能広キニ失スルコト軍備制限問題ニ關シ何等ノ解決ヲ齎ラササルコト普遍的加盟ヲ期シ得サルコト等ノ欠点ヲ指摘シ相互援助条約案成立ノ見込ミナキコトヲ断シ他面ニ於テ紛争ノ平和的処理安全及軍備制限問題ノ不可分ナルコトヲ容認シ英國首相ノ仲裁裁判拡張ノ主張ニ関シテハ之ニ同情ヲ表スルト同時ニ政治問題並ニ適用スヘキ法律サヘナキ事項迄モ仲裁裁判ニ付セントスルノ不可ナルヲ論シ紛争ヲ仲裁裁判又ハ理事

会ノ審査ニ付セス仲裁判決又ハ理事会ノ決定ヲ履行セサル國ヲ侵略國ト認定セントスル米国人「ショットウェル」等ノ見解ニ付テハ右履行ノ有無ハ常ニ新タル争議ノ原因ト對スル制裁ニ関シテハ其有効ヲ期センカ為メ國家主權ノ觀念ト兩立セサル權能ヲ理事会ニ付与セントスルヲ不可ナリトシ寧ロ各國間ニ締結セラレタル約定ノ遵守ニ関スル信賴ノ内ニ安全ノ保障ヲ發見スルニ至ランコトヲ希望シ要スルニ規約ハ一ノ完全ナル安全及援助ニ関スル条約ナレハ其改正又ハ解釈的決議ノ内ニ紛争ノ平和的処理安全及軍備制限問題ノ解決ヲ求ムヘキナリト論結シタリ英國委員ハ相互援助条約案ヲ受諾シ得サルコトヲ言明シテ仲裁裁判安全及軍備制限問題ノ解決ハ之ヲ規約中ニ求メサルヘカラサルコトヲ主張シ各國ハ規約ニ依リ戦争ニ訴ヘサルノ義務ヲ負ヘルカ故ニ一切ノ紛争ニ付平和的解決ヲ求メサルヘカラサルコトヲ希望シテハ之ヲ規約第八条ノ明文上安全ノ保障ト軍備縮小トハ密接ノ關係アリト述ヘテ軍備縮小カ結

局ノ目的タルコトヲ高調シ尚如何ナル軍備縮小計画モ独逸カ連盟ノ一員タラサル限り不完全タルヲ免カレストテ独逸連盟加入ニ関シ積極的ニ尽瘁スヘキ旨言明セリ
仏國委員ハ仲裁裁判ハ相互援助条約案ニ規定セラレタル安^全ノ保障ト一体ヲナン共ニ軍費制限ノ前提ナリト言ヒ右条約案ハ規約ノ適用ヲ目的トスルモノニ過キサルコトヲ述ヘ右条約案ノ欠点ハ侵略國認定ノ困難ニアルモ前記「ショットウェル」氏等ノ見解ヲ採用スレハ最早疑点ナシト言ヒ仲裁裁判ニ関シテハ仏國ハ嘗テ海牙會議ニ於テモ最近倫敦會議ニ於テモ率先之ヲ主張シタルコトヲ指摘シ制裁ニ関シテハ其ノ有効ノモノタラサル可カラサル所以ヲ述ヘテ連盟國カ其ノ兵力ヲ正義ノ使用ニ供センコトヲ要望シ特殊協定力同盟トハ相異ナル處アル理由ヲ説明シ國ニ依リテハ兵力援助迄モ之ヲ供給スルコト困難ナルヘキモ主義上ハ兵力援助ノ義務ヲモ認メンコトヲ要求シ最後ニ委員會カ何等カノ具體的決定ニ到達センコトヲ希望シタリ

塞耳比、羅馬尼及波蘭委員ハ大体仏國側ノ見解ニ近似スル意見ヲ開陳シタリ松田ハ貴電第一〇三号ノ趣旨ヲ敷衍シテ日本委員ハ安全保障、平和維持ノ為諸國ト協力スルヲ辞セ

サルニ依リ若シ相互援助条約ニ依リ軍縮ノ実行ヲ期シ得可シトセハ右条約案ヲ審査スルコトニ異議ナシ尤援助条約案中ニ規定セル特殊協定ニハ危惧ノ念ヲ禁スル能ハサルモノアリ然レトモ此点ニ付テハ「テランダンタント」ヲ見出スニ至ランコトヲ希望ス将又連盟規約ハ連盟國ノ全部カ受諾シタル安全保障、平和保持ノ要具ナリ故ニ之ヲ尊重シテ素リニ根本的改正ヲ為ス可カラス然ルニ相互援助条約案カ規約ノ明文ヲ逸脱セル点アルコトヲ指摘セサル能ハス日本ハ法的組織ニ依ル和平ノ確保ヲ希望スル点ニ於テ人後ニ落ツルモノニアラスト雖安全ノ保障ヲ強固ナラシメンカ為ニハ各國等シク國家ノ緊切利益獨立及名譽ニ関スル問題迄モ義務的ニ國際司法裁判所ニ付託スルヲ要スヘキモ今日ノ世界ノ状態ニ於テ其処迄進ミ得ヘキヤ疑ナキ能ハス云々ト述へ置キタリ

諾威委員ハ仲裁裁判受諾及軍備縮小ノ同時且相互的ナラン事ヲ要求シ軍備ハ常ニ最後ノ外交の手段トシテ用ヒラルル危險アル処之ヲ撤廃スルトキハ平和ヲ齎シ仲裁裁判決ノ实行ヲ容易ナラシムル旨ヲ述ヘ十年間ニ軍事費予算半減ヲ目的トセル軍備制限案ヲ提出シ丁抹代表モ略ホ同一ノ見地ヨリ

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一〇六

一三〇

平和条約規定ノ奥地利陸軍兵力及獨乙海軍力ヲ標準トセル
軍備制限案ヲ提出シ瑞典代表ハ兵力援助ニハ協力シ得サル

事及仲裁裁判ヲ拡張シ制裁及經濟封鎖ヲ有効ナラシムルノ
適當ナル事ヲ説キタリ南米諸国及豪州委員等ハ各其ノ立場
ヲ説明シ相互援助条約案カ歐州ノ時代ニ適合スルモノニシ
テ自國カ之ニ利害ヲ感セサル事及規約上ノ義務ハ之ヲ遂行

スルニ咨ナラサル旨ヲ述ベタリ右ニテ一般討議ヲ終リ具体
案作成ノ為第三委員会ハ「チエツコスロバキア」、仏國、瑞
典、英國、諾威、日本、白耳義、伊國、波蘭、羅馬尼、智
利及勃牙利代表十二名ヨリ成レル第四分科会ヲ構成シタリ
右第四分科会ハ「ベネシュ」(「チエツコスロバキア」)ヲ
議長兼報告者ニ指名シ本分科会ニ於ケル討議基礎案ヲ作成
スルコトヲ同氏ニ依頼シタル結果同氏ノ立案セル案ニ依リ
十六日ヨリ討議ヲ開始セリ

一〇六 九月二十八日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

第一、第二及ビ第三分科会ノ報告ニ基ヅキ第

三委員会ガ決議シタル事項報告ノ件

(九月二十九日接受)

第九二号

第三委員会ハ二十六日午前ノ會議ニ於テ第一第二及第三分
科会ノ報告ニ基キ左ノ諸件ヲ決議シタリ
一、兵器取引取締條約ニ関シテハ右案ヲ連盟國及非連盟國
ニ送付シ一九二五年四月又ハ五月中右案審議ノ為開催サル
ヘキ國際會議ニ参加スルヤ否ヤヲ十二月ノ理事会開催迄ニ
事務總長ニ報告方ヲ求ムル様理事会ニ依嘱ス
二、事務局作製ノ兵器取引ニ関スル統計報告ニ關シテハ混
成委員会其他ノ機関ヲシテ右報告ヨリ生スル結論及兵器取
引ノ特長ニ關シ報告書ヲ提出セシムルコト及各國政府ニ資
料供給方ヲ求ムルコトヲ決議ス

三、兵器民營取締條約ノ基礎的原則ニ關シテハ混成委員会
及經濟委員会ノ報告ヲ諒承シ混成委員会ヲシテ全ク自由ニ
本件ノ審査ヲ統ケ将来開催ノ國際會議討議ノ基礎タルヘキ
條約案ヲ起草セシムルコト及右條約案起草ニ付右委員会ト
協力スヘキ代表派遣方ヲ米國政府ニ求ムルコトヲ決議ス
四、華府海軍條約ノ原則普及ヲ目的トスル條約案ニ關シテ
ハ再度専門家會議ヲ召集セス海軍縮小問題ハ之ヲ九月六日
ノ総会決議ニ予見セラレタル軍備縮小國際會議ノ取扱ヒ一
般軍備縮小問題中ニ包含セシムルニ決ス

五、事務局作製ノ軍事統計年報ニ關シテハ其出来栄ニ満足
シ特ニ戰時ニ動員シ得ヘキ各國ノ産業及工業力ニ關スル部
分ヲ充実スルコトニ留意シツツ事務局ヲシテ右年報作製方
ヲ繼續セシムル様理事会ニ依頼スルニ決ス

六、混成委員会ト當設軍事委員会トノ協力問題ハ之ヲ理事
會ニ付託シ混成委員会ノ組織ニ關シテハ軍縮問題カ新ナル
進路ヲ取ラントスルニ顧ミ之ヲ改メ諸國政府代表、經濟委
員会、財政委員会、交通委員会、軍事委員会代表、資本代
表、労働代表及理事會ノ選定スル法律家其他ノ専門家ヲ以
テ右委員会ヲ構成シ右委員会ニ代表者ヲ有セサル國ニ關シ
テハ委員会ハ其必要ト認ムル場合其代表者ヲ召集シ得ヘク

軍備縮小國際會議ニ參加ノ意思ヲ表明シタル非連盟國ニ關
シテハ右委員会ノ事業ニ協力スヘキ代表者派遣方ヲ求ムル
ニ決ス

惨禍ノ恐ルヘキコトヲ周知セシムルニ努ムル様理事会ニ依
頼スルコト及諸國カ其産業經濟及化学ノ力ヲ武器製造ノ用
ニ供スルカ如キコトナカラシメンカ為紛争ノ平和的處理又
ハ安全問題ノ解決ニ依リ戰爭ノ全因ヲ除去スルノ緊要ナル
コトニ付世界輿論ノ注意喚起方ヲ希望スル旨ヲ決議案ハ其
儘二十七日ノ総会ニ於テ決議セラレタリ

一〇七 九月二十八日 在ジュネーヴ連盟総会代表ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

兵器取引取締條約案 ワシントン海軍條約ノ 原則普及ヲ目的トスル條約案及ビ化学戰決議

案ニ關スル件

(九月二十九日接受)

第九三号

往電第九二号ニ關シ

(一)兵器取引取締條約案ニ關シテハ貴電第一三号御訓令ノ次
第アリタル處該條約案ハ既ニ混成委員会ニ於テ審議ヲ經タ
ルモノナレハトテ分科会ニ於テハ案内容ノ審議ヲナサス之
ヲ将来開催ノ國際會議ノ基礎案ニ供スルノ議題多數ニテ通
過スルニ至リ本委員会ニ於テモ案ノ内容ニ付一二二發言シタ
ル國アリタル際議長ハ本案ハ理事會ノ招請ニ応シテ参加ス

九、軍事費予算制限問題ハ軍備縮小國際會議ノ研究事項ニ
屬スル故右問題ニ關スル例年ノ勸告ヲ繰返ササルコトトス
八、軍事費予算制限問題ハ軍備縮小國際會議ノ研究事項ニ
九、化学戰ニ關シテハ混成委員会ノ報告ヲ公表シ化学戰ノ

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一〇八

一一一

ル連盟國及非連盟國ノ代表者ヨリ成ル國際會議ノ討議ニ付スヘキモノニシテ何等連盟國ヲ羈束セス右會議ニ於テ自由ニ討議シ得ヘキモノナルコトヲ理由トシテ発言ヲ阻止シタル有様ナルニ依リ此ノ際獨リ我カ主張ヲ陳述スルハ不得策ト思考シ御訓令ノ趣旨ハ今後ノ會議ニ於テ其他ノ諸点ト共ニ充分主張スルコトトナセリ尚兵器民營取締條約ノ基礎的原則ニ関シテモ右同様ニ付強テ此ノ際主張セサリシ次第ナリ

(二)華府海軍条約ノ原則普及ヲ目的トスル條約案ニ関シテハ今般決定シタル來年開催ノ軍備縮小會議ノ計画案ニ依リ一切ノ問題ヲ該會議ニテ討議スル方然ルヘシトノ決議ニ達シタリ尚本件ニ関シ分科会ニ於テ意見交換ノ際英國委員ハ日本委員ヘ倫敦「タイムス」記事ヲ示シ本件ニ付テハ米国ノ

參加極メテ必要ナルニ付何等力米国政府ノ感情ヲ和クルカ如キ方法ナキヤト諮リタルニ付松田ハ米国參加ノ極メテ必要ナルコトヲ述ヘ英國委員ノ意見ニ賛成シタル処仏國委員「ズジュブネル」ハ米国ノ參加ハ本件而已ナラス軍縮計画全体ニ付極メテ必要欠クヘカラサル事柄トテ米国ヲ疎外シタルモノニ非サルコトハ右計画中非連盟國ヲモ招請スルノ

箇条アルニ依リ充分ニ之ヲ説明シ得ヘク又本件ノ如キハ理事會ニ於テ種々考慮スヘキ問題ナルヲ以テ本分科会トシテハ何等言及セサルヲ得策トスト述ヘ分科会ハ此ノ意見ニ一致シタリ

(三)化学戰ニ関シテハ貴電第三四号御訓令ノ次第アリタルモ我カ主張ニハ分科会同僚中賛成者少ク到底成立ノ見込ナカリシニ付決議案提出ハ之ヲ見合セ往電第九二号ノ決議ニ同意ヲ表シタリ

一〇八 十月八日 在パリ松田連盟事務局長ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

平和議定書ニ関スル総会決議ニヨル軍縮会議
準備及ビ混成委員会改造ニツキ理事会決定ノ

件

連第一九八号

(十月九日接受)

石井理事ヨリ

今回ノ議定書ニ關スル總会決議第一ノ四ノ軍縮會議準備及混成委員会改造ノ件ハ十月三日理事会秘密会ニテ審議シ同日公開理事会ニテ左ノ如ク決定セリ

軍縮會議準備事業ヲ指揮統轄スルハ理事会ノ權限ナルモ理

事會自身屢々会合スルコト因難ナルニ依リ理事全部ヲ以テ委員會ヲ構成シ此委員會カ右準備事業ヲ指揮統轄スルコトトス之ニハ主義上各理事自ラ出席スヘキモ其都合ニ依リ代理ヲ出席セシメ得從テ事實上理事会ト同一ナルモ名義上ハ理事会ノ委員會ニシテ通常理事会以外ニ屢々会合シ其職務モ右準備事業ニ限ラル尤モ最後ノ決定ヲ与フルハ通常理事会トス、次ニ右理事会ノ委員會ヲ援助スル為メ從来ノ混成委員會ヲ改造シ名前ヲ Commission de Coordination ト

シ其構成ハ前記理事会委員會ヲ中心ト為シ之ニ經濟財政文通委員會ノ代表者六名常設軍事委員會代表者六名労働理事會ニ於ケル使用者代表二名労働者代表一名ヲ加フ、尚将来必要アラハ之ニ法律家ヲ加フ此委員會ハ最後ノ決定ヲ為ス

權限ヲ有セス又理事会ハ専門事項ニ付直接常設軍事委員會其他ノ専門機關ニ諮問スル自由ヲ保有ス右理事会委員會ハ十一月十七日第一回会合ヲ催シ議定書第十二条ノ適用及軍備縮小ニ関スル大体ノ「プログラム」ヲ立ツル筈ニテ各理事ハ夫レ迄ニ必要ナル政府ノ訓令ヲ受ケ置クコトス他方連盟事務局ハ議定書第十二条適用ニ関シ必要ナル資料ヲ蒐集シ經濟財政及交通委員會ニ配付シ右理事会委員會ノ命ア

一一〇 十月二十八日 在パリ松田連盟事務局長ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)
軍縮會議ニ関スル計画立案案ニ対スル本邦側ノ
意見請訓ノ件

石井ヨリ

往電第一九八号ニ關シ

軍備縮小會議準備事業ヲ指揮統轄スヘキ委員會ニハ本使差支ノ場合松田ヲ代理トシテ出席セシムルコトト致シ度ク尚同電末段前記會議ノプログラムニ付帝國政府御方針ノ大綱ナリトモ御訓令ヲ請フ

連第二二七号
(十月二十九日接受)
往電第一九八号末段ニ關シ

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一一一

一三四

其要旨ハ來月十七日開会ノ「コミテ」ニ軍備縮小會議ニ開スル大体ノ計画ヲ立案セシムルニ付テハ前理事会ノ決議通り理事会ニ代表者ヲ有スル諸國ハ其代表者ニ必要ナル訓令ヲ与ヘラレントヲ特ニ希望スト云フニアリ本書翰ハ理事會関係諸國ニ一般ニ発セラレタルモノト思ハレ前記ノ會議ニハ關係国各々意見ヲ持出スヘキニ付往電第二一〇号末段ノ請訓事項ニ付テハ右期日前成ルヘク早目ニ何分ノ御電訓ヲ請フ

一一一 十一月十二日 在パリ松田連盟事務局長ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

軍縮會議一般計画ニ閔ズル意見ハ理事会開催 前事務總長ニ通知セラレタキ旨同總長ヨリ要請ノ件

連第二三二号（十一月十三日接受）
往電連第二二一九号ニ閔シ

連盟事務總長ヨリ貴大臣宛十一月五日付書簡ヲ差越セリ其ノ要旨ハ軍備縮小會議ノ一般計画ハ次回理事会（十二月八日羅馬ニ開催）カ自ラ右一般計画ノ立案ニ着手スルコトトナリタルニ付理事國ハ右 comité ニ於テ其ノ代表者ニ必要

三、兵器材料軍事予算等ニ閔スル制限ニハ賛成シ難シ

四、兵器教育等ノ諸制度ニハ制限ヲ及ホササル様致度シ

五、軍需工業機関ノ制度ニ閔スル問題ハ兵器取引取締及兵器民營取締ノ會議ニ讓ルヲ適當ト認ム

六、從來認メ來レル程度ノ軍事報道供給ヲ為スハ差支ナキモ國際軍備監督機関ノ設置ニハ贊成シ難シ

七、海軍軍備ノ制限ハ艦型（軍艦ノ基準排水量及兵装）及総排水量ノ制限ヲ以テ必要且十分ト認ム人員及予算ニ閔スル制限ハ右ヲ実施スル以上其ノ必要ナク又此兩者ハ国情慣習ヲ異ニスル各國ニ付簡単且公平ニ制限スルコト困難ナリ

八、軍艦ハ之ヲ主力艦航空母艦及補助艦ニ三大別シ補助艦ハ更ニ水上補助艦（巡洋艦及駆逐艦ヲ総称ス）潛水艦及補助航空母艦（一万噸以下ニシテ飛行甲板ヲ有スルモ

ノ）ニ分チ此ノ区分ニ従ヒ制限スルヲ適當ト認ム

九、補助艦ニ華府會議ノ比率ヲ其儘適用スルコトニハ自衛上同意シ難ク我方態度ハ本會議迄ハ之ヲ留保シタキ次第ナルニ付「プログラム」等ノ審議ニ當リテハ右比率ヲ予メ承認スルカ如キ態度ハ絶対ニ之ヲ避ケラレ度シ

一一二 十二月十七日 在仏國石井大使宛（電報）
軍縮會議ニ閔シ連盟事務局ニ對スル回答ノ趣旨以外ニ含ミオクベキ事項指示ノ件

第四〇五号
貴電連第二一〇号ニ閔シ
往電第四〇六号事務局ニ對スル回答ノ趣旨以外左ノ諸項御含ノ上可然措置セラレ度シ

一、世界大戦ニ直接參加セル列強軍ニ比シ帝国ハ新式裝備隊ニ於テ其ノ質量共ニ著シキ遜色アリ故ニ軍備ノ内容殊ニ航空機其他兵器材料等ニ就テハ尚一層改善充實ノ余地ヲ存スル様完全ナル留保ヲ為スヲ要ス

二、陸軍及空軍ノ制限ハ兵數ヲ以テスルニ之ヲ止ムルヲ適當ト認ム

ナル訓令ヲ与フル代リニ右羅馬理事会以前本件立案ニ閔シ参考トナル帝国政府ノ意見ヲ事務總長ニ通告セラレタシト言フニアリ書簡ハ郵送ス
尚貴電第一三二号ニ閔シ事務局側調査ノ模様並各国ノ意向等判明次第電報ス可シ

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一三三

一三五

三 國際連盟ニ於ケル軍備制限問題 一三

一三六

一、公正ナル軍備制限協定ニ依リテ世界ノ平和人類ノ福祉ヲ増進スルハ帝國ノ衷心希望スル所ニシテ軍備制限會議ノ成果ヲ擎クル為帝國ハ真摯ノ努力ヲ傾注セントスルモノナリ

二、軍備制限ハ國際連盟規約第八条ニ從ヒ國ノ安全及國際義務ノ履行ニ支障ナキ最低限度ヲ標準トシ各國ノ地理的地位及特殊ノ条件等ヲ考量シテ定ムヘキモノト認ム

三、軍備制限ノ目的ヲ完全ニ達成スルニハ陸海空ノ三軍ニ涉リ制限縮小スルコトヲ要スルモ協定ノ成立ヲ容易ナラ

シムル為各軍毎ニ審議スル方針ニ出ツルヲ適當ト認ム
四、陸軍及空軍（水上部隊ヲ除ク）ノ制限ハ兵数ヲ以テ之ヲ為スヲ適當ト思考ス空軍水上部隊ハ之ヲ搭載スル艦船ニ依リ制限スルヲ適當ト思考ス

五、海軍軍備ノ制限ハ艦型（軍艦ノ基準排水量及兵装）及總排水量ノ制限ヲ以テ必要ニシテ十分ナリト認ム

六、予算ノ制限ハ国情ヲ異ニスル各國ニ付一律ノ標準ヲ以テ公平ノ制限ヲナスコト困難ト認ム

事項四 日英通商航海條約改定交渉

一一四 三月三日 松井外務大臣ヨリ
在英國林大使宛（電報）

日英通商條約改訂ニ關スル我方方針ニツキ英

國政府ト意見交換方訓令ノ件

別電一 三月三日松井外務大臣在英國林大使宛電報第

六六号

條約改訂ニ關スル我方方針

二 同日松井外務大臣在英國林大使宛電報第六七号

條約ノ項別修正方針ニ關スル訓令

三 同日松井外務大臣在英國林大使宛電報第六八号

條約第二十一条、第二十六条及ビ第二十七条ノ追加乃至修正個所

第六五号

(一)大正十一年ゼノア會議ノ際貴官發大臣宛電報第一六三号

ニ關シ日英通商條約改訂ノ件ハ川島帰朝後條約改正調査委員会ニ於テ審議ヲ進ムル所トナリシモ恰モ財政經濟調査委員会ニ於ケル関稅改正ニ關スル審議抄ラサリシ為方

四 日英通商航海條約改定交渉

一一四

針ヲ決定スルニ困難ヲ感シ而シテ同調査委員会ニ於ケル關稅改正ニ關スル基礎調査ハ客年八月頃一先ツ結了セシモ統イテ九月ノ大震災ニ遭遇シ更ニ充分ナル調査ヲ為スニ非サレハ關稅改正案ヲ編成スルヲ得サル事態ヲ見ルニ至レリ就テハ帝國政府ニ於テハ日英其他ノ税率協定ノ改廃ノ問題ハ既ニ條約ノ有効期間モ到達セルコトニモアルニ付此ノ儘無期延期スルコトナク独立シテ解決スルコトヲ可ト認メ別電第六六号ノ如ク條約改訂ニ關スル方針ニ基キ各國トノ間ニ條約改正又ハ締結ノ談判ヲ開始スルコトニ決定セリ

(二)就テハ貴官ハ直ニ英國政府ニ對シ帝國政府ニ於テハ現行日英通商條約ニ對シ列國政府ニ對スルカ如ク別電第六六号(一)ノ方針ヲ採ルコトヲ採用スルコトニ決定セルコト並ニ現行日英條約ハ既ニ客年七月十六日ヲ以テ既ニ満十二年ノ有効期間到来シ殊ニ其ノ間ニハ歐州大戰ノ如キ經濟上大変動ヲ及ホセル所ノ大事故モ生セルコトナレハ今次ノ條約ノ修正ニ關スル帝國ノ提議ニ對シテハ十二分ノ厚